

AstraZeneca PLC

2012年第2四半期・上半期業績

2012年7月26日ロンドン発

予想通り、後発品の競合及び厳しい市場状況を反映し、第2四半期の売上は減少しました。最近の事業開発の取り組みを通じ、既存製品ポートフォリオ及び開発パイプラインが強化され、長期的な優先事項の実行において進捗を果たしました。通年財務目標に変更はありません。

第2四半期の売上は恒常為替レート（CER）ベースで18%減の66億ドル

-主要ブランド数製品の独占権喪失による売上減は、売上減少の15%に相当。クレストールの売上は反発。ONGLYZA™、イレッサ及びフェンロデックスの力強い成長は継続。

-予想通り、スウェーデンの製造施設のサプライチェーンにおける供給制限が第2四半期も継続；第2四半期の売上に対する影響は推定約2%。当社の予測では年間売上に対する影響は約1%。

-新興市場の売上はCERベースで1%増加。サプライチェーンの問題が新興市場の売上に影響；この影響を調整後、売上成長率は約8%。

第2四半期中核一株当たり利益（中核EPS）はCERベースで6%減の1.53ドル

-中核EPSは、国際移転価格問題に伴う税務案件の解決により、2億4,000万ドル（1株当たり0.19ドル）のプラス影響を受けました。通年での実効税率は20%前後になると予測しています。

第2四半期の報告ベースのEPSはCERベースで11%減の1.27ドル

糖尿病関連アライアンスは、ブリストル・マイヤーズスクイブによるAmylin Pharmaceuticalsの買収により拡大

取締役会は第1回期中配当0.90ドルを勧告。正味自己株式の買い戻し総額は上半期で16億ドル；市場状況及び事業のニーズにより変動がありうるが、買い戻し額の通年目標は従来通り45億ドル。

中核EPSの通年目標は5.85~6.15ドルのレンジに据え置き

ファイナンシャルサマリー

グループ	第2四半期 2012 100万ドル	第2四半期 2011 100万ドル	前年同期比 %	CER %	上半期 2012 100万ドル	上半期 2011 100万ドル	前年同期比 %	CER %
売上高	6,660	8,430	-21	-18	14,009	16,722	-16	-15
報告ベース								
営業利益	1,868	2,965	-37	-32	4,028	6,366	-37	-35
税引前利益	1,763	2,858	-38	-33	3,816	6,146	-38	-36
1株当たり利益	\$1.27	\$1.53	-17	-11	\$2.55	\$3.61	-29	-27
中核*								
営業利益	2,269	3,322	-32	-27	5,266	7,000	-25	-23
税引前利益	2,164	3,215	-33	-28	5,054	6,780	-25	-23
1株当たり利益	\$1.53	\$1.73	-12	-6	\$3.34	\$3.96	-16	-13

* 当社経営陣は当社の業績を理解していただく上で有益であると考えられる、GAAP（一般会計原則）とは異なる補足的な指標として中核財務指標も報告しています。2012年の財務ガイダンスはこの指標に基づいています。中核財務指標の定義及び中核と報告ベースの財務指標の調整については2及び4ページをご覧ください。

最高経営責任者代理サイモン・ローズは次のように述べました:「予想通り、主要ブランド数製品の独占権の喪失及び厳しい市場状況により、第2四半期の売上及び利益とも減少しました。この厳しい状況においても、通年財務業績目標の達成に向けて、当社は順調に推移しています。」

「第2四半期の結果は当社ブランド数製品の回復力と規律あるコスト管理によるベネフィットを反映していません。アムジェンとの協働及びアルデアの買収や、ブリストル・マイヤーズスクイブとの糖尿病関連アライアンスの拡大という素晴らしい機会を通じ、引き続き開発パイプライン及び既存製品のポートフォリオを強化しました。」

「当社の長期的な優先事項に変更はありません。当社は、独占権を維持するブランドの業績を推進し、長期的な潜在力を有する市場に投資し、持続可能な競争力を確保するためにコストベースを再構成し、社内外を問わず、イノベーションへの投資の生産性向上を継続しています。」

営業およびファイナンシャルレビュー

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）ベースおよび中核ベースで示されています。当社の報告ベースの財務情報に加えて提示するこうした指標はGAAP（一般会計原則）とは異なる指標であり、当社グループの進行中のビジネスの基礎的な財務実績やそれにプラスとなるビジネス上の重要な要素をよりよく理解していただく上で有益だと当社経営陣は考えています。中核ベースの財務指標では、当社のグローバルな事業再構築および相乗効果プログラムの費用および引当金、2007年のメディミュン社買収に関連する重要な無形資産の償却および評価減、米国でのメルク社との提携打ち切りに関する取決めやその他の特殊項目といったいくつかの重要項目を除外するよう調整されています。これら調整の性質に関する詳細は、当社のアニュアルレポートの84ページおよび2011年米国証券取引委員会（SEC）への提出書類20-Fに示されています。

第2四半期

1株当たり利益を除く財務上の数字は、すべて100万単位。加重平均株数も100万単位。

	2012年 報告ベース	事業再構築 費用	メルク社 および メディミュン社 償却	無形資産 評価減	法務関連引 当金	2012年 中核 ベース	2011年 中核 ベース	前年同期比 %	CER %
売上高	6,660	-	-	-	-	6,660	8,430	(21)	(18)
売上原価	(1,346)	6	-	-	-	(1,340)	(1,462)		
売上総利益	5,314	6	-	-	-	5,320	6,968	(24)	(20)
売上比%	79.8%					79.9%	82.7%	-2.8	-1.9
物流費	(75)	-	-	-	-	(75)	(88)	(15)	(10)
売上比%	1.1%					1.1%	1.0%	-0.1	-0.1
研究開発費	(1,189)	136	-	-	-	(1,053)	(1,119)	(6)	(4)
売上比%	17.9%					15.8%	13.3%	-2.5	-2.4
販売・一般管理費	(2,350)	63	116	-	66	(2,105)	(2,627)	(20)	(18)
売上比%	35.3%					31.6%	31.2%	-0.4	-0.4
その他収入	168	-	14	-	-	182	188	(3)	-
売上比%	2.5%					2.7%	2.2%	+0.5	+0.5
営業利益	1,868	205	130*	-	66**	2,269	3,322	(32)	(27)
売上比%	28.0%					34.1%	39.4%	-5.3	-4.3
正味金融費用	(105)	-	-	-	-	(105)	(107)		
税引前利益	1,763	205	130	-	66	2,164	3,215	(33)	(28)
税金	(145)	(48)	(20)*	-	(3)	(216)	(815)		
税引後利益	1,618	157	110	-	63	1,948	2,400	(19)	(14)
少数株主持分	(7)	-	-	-	-	(7)	(10)		
純利益	1,611	157	110	-	63	1,941	2,390	(19)	(14)
加重平均株式数	1,267	1,267	1,267	1,267	1,267	1,267	1,381		
1株当たり利益	1.27	0.12	0.09	-	0.05	1.53	1.73	(12)	(6)

* 1億3,000万ドルの償却調整費のうちの9,100万ドルは、関連する税調整2,000万ドルを伴うメディミュン社関係の償却調整費です。メルク社関係の償却費は3,900万ドルで、これには税調整は発生しません。

** 5,000万ドルの買収関連費が含まれていますが、これには税調整は発生しません。

第2四半期の売上は、CERベースでは18%減、実質ベースでは為替レート動向のマイナス影響を受けて21%減でした。このうち、主要ブランド数製品の独占権喪失（3月末に喪失したセロクエルIRを含む）による売上減が15%、アストラテックおよびAptiumの売却による売上減が2.4%を占めています。スウェーデンの製造工場での新しい全社リソース計画ITシステムを導入したことによる問題が続いており、売上に2%程度のマイナス影響がありました。根本的な問題は現在までにほぼ解決しており、流通チャネルでは受注残に対応しつつ通常の在庫レベルまで回復させるなど、現行の需要に対応して生産を行っています。このことによる通年での影響は、売上高の1%前後になる見通しです。

米国の第2四半期の売上は29%減少し、セロクエルIRの独占権喪失がその80%を占めています。シムビコート、ONGLYZA™、フェソロデックスの好調は、アストラテックとAptiumの売却による売上減に相殺されました。米国の医療保険制度改革による第2四半期売上へのマイナス影響は、約1億5,000万ドルでした。

ROW（米国及び西ヨーロッパ以外の地域）の第2四半期の売上は12%減でした。西ヨーロッパの売上は20%減でした。西ヨーロッパではセロクエル IRの独占権喪失による売上減に加え、ネキシウム、Atacand、Merremの後発品との競合により売上が減少しました。米国・西ヨーロッパ以外の既成市場の売上は、主にカナダでクレストールや Atacandの後発品との競合により売上が30%減少したことが響き、12%減でした。新興市場の売上は、ブラジルでのセロクエル IR およびクレストールの独占権喪失、メキシコの厳しい市場状況を反映して1%増でした。この売上増はサプライチェーンの問題による影響を受けており、この影響を調整すると、新興市場の売上は約8%増でした。下半期には新興市場における成長は回復すると予想していますが、年間2桁成長の達成は厳しい可能性があります。

第2四半期中核売上総利益は20%減少しました。売上高に占める中核売上総利益率は、前年同期比1.9%減の79.9%でした。これは、主要製品の独占権喪失に伴う製品ミックスの変更が、アストラテックの費用が計上されなかったプラス影響により一部相殺されたためです。

中核販売・一般管理費は、継続的な規律あるコスト管理、事業再構築によるベネフィット、アストラテックにかかるコストの連結解消により、前年同期比18%減でした。米国の医療保険制度改革政策により課された物品税は、当四半期の販売・一般管理費の2.8%に相当しました。

中核その他収入はCERベースで1億8,200万ドルであり、前年同期と同様でした。米国における Entocort のロイヤリティ収入の減少は、米国での Impax Laboratories との契約によるゾーミックによる収入で大部分が相殺されました。

第2四半期中核研究開発費控除前営業利益は、21%減の33億2,200万ドルでした。中核研究開発費控除前営業利益率は売上の49.9%で、前年同期比1.9%減でした。売上と中核総利益率が減少したため、中核販売・一般管理費も前年同期比18%減少したものの、売上に占める割合は増加しています。

第2四半期中核研究開発費は、4%減少しました。これは事業再構築からのベネフィットがアムジェンとの提携などにより増額した研究開発費用を上回ったためです。

第2四半期中核営業利益は、27%減の22億6,900万ドルでした。売上に占める中核営業利益率は、昨年同期比4.3%減でした。売上の減少や中核研究開発費控除前営業利益率が低下したため、中核研究開発費はドルベースで4%減少しましたが、売上高に占める割合は2.4%上昇しました。

第2四半期中核EPSは6%減の1.53ドルでした。当四半期における中核EPSは国際移転価格問題に伴う税務案件の解決により、0.19ドル増加しました。また、中核EPSは、正味自己株式買戻しの結果、総発行済株式数が減少したことのプラス影響を受けました。

報告ベースの営業利益は32%減の18億6,800万ドル、報告ベースのEPSは11%減の1.27ドルでした。中核利益指標の低下と比較して減少幅が大きかったのは、主に事業再構築費用が前年同期（1億3,800万ドル）と比較して、2012年第2四半期（2億500万ドル）に増加したことによるものです。

上半期

1株当たり利益を除く財務上の数字は、すべて100万単位。加重平均株数も100万単位。

	2012年 報告ベー ス	事業再構築 費用	メルク社 および メディミュ ン社 償却	無形資産 評価減	法務関連引 当金	2012年 中核 ベース	2011年 中核 ベース	前年同 期比 %	CER %
売上高	14,009	-	-	-	-	14,009	16,722	(16)	(15)
売上原価	(2,721)	61	-	-	-	(2,660)	(2,789)		
売上総利益	11,288	61	-	-	-	11,349	13,933	(19)	(17)
売上比%	80.6%					81.0%	83.3%	-2.3	-1.9
物流費	(151)	-	-	-	-	(151)	(168)	(10)	(7)
売上比%	1.1%					1.1%	1.0%	-0.1	-0.1
研究開発費	(2,719)	581	-	-	-	(2,138)	(2,191)	(2)	(1)
売上比%	19.4%					15.2%	13.1%	-2.1	-2.1
販売・一般管理費	(4,811)	265	233	-	70	(4,243)	(4,977)	(15)	(13)
% sales	34.3%					30.3%	29.7%	-0.6	-0.5
その他収入	421	-	28	-	-	449	403	11	14
売上比%	3.0%					3.2%	2.4%	+0.8	+0.8
営業利益	4,028	907	261*	-	70**	5,266	7,000	(25)	(23)
売上比%	28.8%					37.6%	41.9%	-4.3	-3.8
正味金融費用	(212)	-	-	-	-	(212)	(220)		
税引前利益	3,816	907	261	-	70	5,054	6,780	(25)	(23)
税金	(556)	(189)	(38)*	-	(4)	(787)	(1,254)		
税引後利益	3,260	718	223	-	66	4,267	5,526	(23)	(20)
少数株主持分	(9)	-	-	-	-	(9)	(18)		
純利益	3,251	718	223	-	66	4,258	5,508	(23)	(20)
加重平均株式数	1,274	1,274	1,274	1,274	1,274	1,274	1,389		
1株当たり利益	2.55	0.56	0.18	-	0.05	3.34	3.96	(16)	(13)

* 2億6,100万ドルの償却調整費のうちの1億8,100万ドルは、関連する税調整3,800万ドルを伴うメディミュン社関係の償却調整費です。メルク社関係の償却費は8,000万ドルで、これには税調整は発生しません。

** 5,000万ドルの買収関連費が含まれていますが、これには税調整は発生しません。

上半期の売上はCERベースで15%減、実質ベースでは為替レート動向のマイナス影響を受けて16%減でした。そのうち、複数の主要ブランドの独占権喪失が売上減少の11%を占めており、これにはセロクエルIRの米国の流通在庫に関する1億8,700万ドルの返品準備金が含まれています。米国の売上は20%減、米国及び西ヨーロッパ以外の地域の売上は11%減でした。

中核売上総利益は売上の81.0%を占め、前年同期比1.9%減でした。

中核販売・一般管理費は、引き続き規律あるコスト管理を行っているため、前年上半期比13%減でした。新興市場における選択的投資は、事業再構築によるベネフィットおよびアストラテック関連費用の消失により一部相殺されました。

上半期中核その他収入は14%増加しました。2012年第1四半期からのImpax Laboratories社との契約による米国でのゾーミックによる収益を、売上ではなくその他収入として計上しています。

中核研究開発費控除前営業利益は17%減の74億400万ドルでした。中核研究開発費控除前営業利益率は売上の52.8%で、1.7%減でした。売上高に占める中核売上総利益の減少および中核販売・一般管理費の増加は、中核その他収入の増加によって一部相殺されました。

中核研究開発費は、上半期1%減少しました。第2四半期の4%減は、第1四半期の2%増（TC-5214に関連した無形資産評価減を含む）の大部分を相殺しました。

上半期中核営業利益は23%減の52億2,660万ドルでした。中核営業利益率は売上の3.8%減の37.6%でした。

中核 EPS は前年上半期比 13%減の 3.34 ドルでした。2012 年上半期中核 EPS には 0.19 ドルの税務案件解決によるプラス影響が含まれています。2011 年上半期は、1 株あたり 0.39 ドルの税務案件解決によるプラス影響が含まれています。2012 年上半期中核 EPS は、正味自己株買戻しの結果、総発行済株式数が減少したことによるプラス影響を受けました。

報告ベースの営業利益は 35%減の 40 億 2,800 万ドル、報告ベースの EPS は 27%減でした。中核財務指標の低下と比較して減少幅が大きかったのは、主に、事業再構築費用が前年上半期（2 億 8,100 万ドル）と比較して、2012 年上半期（9 億 700 万ドル）に増加したことによるものです。

生産性の向上

2012 年 2 月に発表した事業再構築の第 3 段階は順調に推移しています。第 2 四半期に支出した費用は 2 億 500 万ドルで、6 月末までの累計費用は 9 億 700 万ドルです。プログラムの推定費用総額の 21 億ドルの大部分を 2012 年に計上する予定です。

2014 年末までに年間 16 億ドルの費用削減を達成するという目標に向けて、プログラムは予定通り進捗しています。

金融収益・費用

当四半期の正味金融費用は、前年同期の 1 億 700 万ドルに対し、1 億 500 万ドルでした。確定給付年金制度の債務にかかる支払利子は、前年同期と比較して 1,100 万ドル減少しましたが、制度資産の実際収益が減少したため一部相殺されました。借入金の支払利息と長期債券に係る公正価値損失は、おおむね前年同期と同様でした。

税金

第 2 四半期における報告ベースの実効税率は 8.2%（前年同期 25.7%）で、上半期では 14.6%（前年同期 18.0%）でした。第 2 四半期の実効税率には、2011 年度のグループ財務諸表の注記 25 に開示された移転価格に関連して、6 億 4,900 万ドルの金額の範囲内で以前に提示された移転価格問題が解決した後の過去数四半期に関する 2 億 4,000 万ドルの調整が含まれます。この利益を除外すると、上半期の実効税率は 20.9%でした。この 20.9%の税率は営業利益に対する中核課税対象調整に適用されており、上半期中核実効税率は 15.6%でした。

この引当金を取崩した結果、2012 年度におけるグループの実効税率は、22%程度という前回の見通しから 2%低下し、20%程度になる見通しです。

前年同期の実効税率は、2002 年から 2014 年末までの期間のアストラゼネカの米国での事業に関する移転価格処理および関連評価案件に関して、英国の歳入関税庁と米国の国税庁が事前価格確認の条件に合意したとする 2011 年 3 月の発表に伴う調整により 5 億 2,000 万ドルのプラス影響を受けました。このプラス影響を除外すると、前年上半期の報告ベースの実効税率は 26.5%でした。

キャッシュ・フロー

2012 年 6 月 30 日までの半年間に営業活動から生じたキャッシュ・フローは、前年同期間の 28 億 2,900 万ドルに対して、27 億 9,100 万ドルでした。運転資本の改善と納税額の低下が営業利益の減少を相殺しましたが、年金掛け金の増加によって、非現金その他の変動における流出が増加しました。

投資活動による当上半期の正味キャッシュ・イン・フローは、2011 年上半期の 2 億 8,600 万ドルに対して、13 億 5,300 万ドルでした。10 億 6,700 万ドルの差額は、主に現金と短期投資・定期預金間の正味移動が、アルデア株取得の際の正味現金払いで一部相殺されたことによるものです。

株主への現金配分は、自己株式取得正味額 16 億 200 万ドルおよび 2011 年第 2 回期中配当 25 億 500 万ドルによる 41 億 700 万ドルでした。

資本と負債の構造

2012 年 6 月 30 日現在、未払負債残高（有利子負債と借入金）は 93 億 1,800 万ドルでした（2011 年 12 月 31 日現在では 93 億 2,800 万ドル）。2012 年 6 月 30 日現在の未払負債残高のうち、1 年以内に返済期限が到来するのは 20 億 800 万ドル（2011 年 12 月 31 日の時点では 19 億 9,000 万ドル）です。

上記の正味キャッシュ・フローのセクションで説明した正味現金流出の結果、正味資金は当上半期に 26 億 3,900 万ドル減少し、2 億 1,000 万ドルでした。

配当および自己株式の買戻し

取締役会は、第 1 回期中配当金 0.90 ドル（58.1 ペンス、6.26 クローナ）を勧告しました。この第 1 回期中配当金額は、第 1 回期中配当金を昨年度の 2.80 ドルの 3 分の 1 程度に設定し、第 1 回と第 2 回の期中配当金のバランスを改善するという取締役会の意向を反映したものです。

取締役会は、年間配当水準の維持もしくは増配を目的とした累進的配当政策を採択したことを発表しました。本政策を採択するにあたり、取締役会は、特許失効と新製品の発売に遭遇するこの時期に当社の収益基盤が変化することから、収益にある程度の変動が予想されることを認識しています。取締役会は、単年度の財務実績のみを反映して年間配当額を決定するのではなく、投資サイクル全体にわたるグループの収益予想の見通しを反映したうえで決定するとの見解を示しています。そのため、期によって配当倍率が変動する可能性はありますが、平均配当倍率の目標値は、報告ベース（事業再構築コスト控除前）の収益に基づき、2 倍（配当性向 50%）に設定しています。

配分政策と全般的な財務戦略を設定するにあたり、取締役会は、引き続き当社、債務者、および株主それぞれの利益のバランスを図ることを目指しています。事業投資の準備、新たな配当政策に要する資金調達、当社の債務元利未払金の支払いを実施後、取締役会は、断続的な自社株買いを通じて、上記に要する額を超えた現金を株主に還元する機会を引き続き検討する予定です。

市場の状況や事業のニーズをうけ、取締役会は、当社は 2012 年度中に合計 45 億ドルの自己株式買戻しを完了する予定であることを発表しました。当社グループは、上半期に 4,100 万株を合計 18 億 5,400 万ドルで買い戻す一方で、株式オプション行使の対価として 740 万株を合計 2 億 5,200 万ドルで発行しました。

2012 年 6 月 30 日現在の総発行済株式数は 12 億 5,900 万株でした。

今後の見通し

上半期の財務実績は、複数製品（特にセロクエル IR）の独占権喪失の影響と、アストラテックおよび Aptium の売却による大きな影響を受けました。これらの要因と困難な市場状況により、通年の売上高は、供給問題の影響を含め、CER ベースで 10% 台の前半から半ばのレンジで減少するものと予測されます。引き続き、事業再構築プログラムの効果を実現し、営業費用の管理を徹底していきます。第 2 四半期中核 EPS は、税金引当金の取崩しによって大きなプラス影響を得ましたが、このプラス影響が実現する見込みに関する確率加重予測は、第 1 四半期のガイダンスの改訂に組み入れられており、また Amylin 買収後の糖尿病領域におけるプリストル・マイヤーズ スクイブとの提携拡大による 2012 年度中核 EPS の希薄化効果の吸収と併せて考えると、中核 EPS の通年目標は引き続き 5.85~6.15 ドルのレンジとなります。

この中核 EPS ガイダンスは当社の主要通貨の 2012 年 1 月における平均為替レートに基づいており、上半期の実質ベースの中核 EPS は、おおむねこの為替の想定に沿ったものでした。この目標には、2012 年末までの平均為替レートが当社の収益ガイダンスが前提としている為替レートから大幅に変動する可能性は考慮されていません。米ドルに対する当社の主要取引通貨の変動によって、売上高や利益が受ける影響度の予想は、2011 年度通年業績発表とともに示されており、当社ウェブサイト（www.astrazeneca.com/investors）で閲覧可能です。

中核財務指標の定義

2013 年度第 1 四半期業績から、アストラゼネカは、中核財務指標の定義を更新し、すべての償却費と無形固定資産の減損を排除します。新しい定義では、現在の定義の下で中核結果に含まれている償却費と減損費による影響をより明確に示すことで、他社との業績比較が行いやすくなります。この件については、第 3 四半期・9 カ月累計業績で最新情報をお知らせします。

関係者取引

当期大規模な関係者取引はありませんでした。

主要なリスクや不確実な事項

事業に影響を与える主要なリスクや不確定要素の内容は、アニュアルレポートの130ページから138ページおよび2011年米国証券取引委員会（SEC）への提出書類20-Fに記載されていますが、これらは本年下半期も同様であると予想しています。

要約すると、アニュアルレポートおよび2011年米国SEC提出書類20-Fに記載された主要なリスクや不確定要素は、以下の通りです。

製品パイプラインのリスク

開発目標の未達、新製品の規制当局の承認の取得および維持における困難、有効な知的財産権の取得と強化の失敗、新製品上市の遅延および戦略的提携関係や買収が不成功となる可能性。

商業化および事業遂行上のリスク

新製品の商業化を成功させる上での課題、新製品の業績、当社製品の不法売買、新興市場での事業推進、知的財産権の満了、後発品との競合による圧力、知的財産権に関する特許訴訟の効力、価格統制及び価格切り下げ、経済的、薬事的および政治的圧力、バイオシミラー、競合製品に対する特許権の満了または早期損失、競合、より厳格な賄賂禁止法および腐敗防止法の実施と施行の拡大、生産性向上計画の予想効果の不確実性、情報技術の失敗およびアウトソーシングの失敗。

サプライチェーンと納品リスク

バイオ医薬品の製造、及び製品に関する第三者への依存度。

法律・コンプライアンス・規制リスク

訴訟及び（または）政府調査の不利な結果、高額な製造物責任賠償請求、関連法規および環境・労働衛生安全義務違反。

経済・財務上のリスク

経済不況の持続による悪影響、為替レートの変動による影響、限定的な第三者保険補償限度額、公租公課および年金。

研究開発の最新情報

当社研究開発パイプラインの総合的な最新情報は、2012 年上半期業績に関連して提供されており、引き続き当社ウェブサイト (www.astrazeneca.com) の投資家向け情報でご覧になれます。

アストラゼネカのパイプラインには現在 90 件のプロジェクトが進行中で、うち 83 件のプロジェクトが臨床段階にあり、さらに 7 件については承認済みあるいは発売されています。また、新規化合物 (NME) については現在 9 件が開発後期 (すなわち第 III 相または承認審査中) の段階にあります。2012 年上半期には、臨床試験ポートフォリオのうち 22 件のプロジェクト (うち 7 件が最初のヒトでの臨床試験に移行) が次の段階に進み、10 件のプロジェクトが中止されました。

第 1 四半期の更新以降のパイプラインの進展は下記を含みます。

糖尿病領域におけるアストラゼネカとブリストル・マイヤーズ スクイブの提携

2012 年 6 月 30 日、アストラゼネカとブリストル・マイヤーズ スクイブは、ブリストル・マイヤーズ スクイブによる Amylin Pharmaceuticals の買収を通じて、糖尿病領域における提携を拡張することを発表しました。ブリストル・マイヤーズ スクイブ社、現金公開買付および 2 段階合併に従い、1 株当たり 31.00 ドル、総額約 53 億ドルで Amylin を買収する予定です。Amylin の純負債とイーライリリー・アンド・カンパニーに対する契約上の義務 (合計で約 17 億ドル) を含む総取引額は、約 70 億ドルです。

ブリストル・マイヤーズ スクイブによる Amylin の買収が完了した後、両社は、既存の糖尿病領域における提携の枠組みに基づき、Amylin の製品ポートフォリオの開発および販売に関する提携契約を締結します。ブリストル・マイヤーズ スクイブによる Amylin の買収後、アストラゼネカは、最終的な調整を経て、ブリストル・マイヤーズ スクイブの完全子会社となる Amylin に対し約 34 億ドルを現金で支払います。提携から生じる損益は、均等に配分します。さらに、アストラゼネカは、今後更に 1 億 3,500 万ドルをブリストル・マイヤーズ スクイブに支払うことにより、本提携に関する主要戦略と財務上の決定に関する同等の支配権を確立することができる、自己裁量で行使可能なオプションを有しています。

Amylin のポートフォリオには、米国とヨーロッパで使用承認を取得した BYETTA[®] (エキセナチド) 注射剤および BYDUREON[®] (エキセナチド徐放性注射用懸濁液/エキセナチド持続性注射用懸濁液用 2 mg 散在および溶剤) という 2 型糖尿病治療薬 2 製品と SYMLIN[®] (プラムリンチド酢酸塩) 注射剤を含む GLP-1 フランチャイズが含まれます。また、送達デバイスや剤形の改善 (1 カ月に 1 回投与のエキセナチドなど) を含むライフサイクル管理パイプラインもあります。このパイプラインには、現在、希少な遺伝的または後天的リポジストロフィーの患者における糖尿病や高トリグリセリド血症の治療薬として米国食品医薬品局 (FDA) で審査中のレプチンアナログである metreleptin も含まれます。

Zinforo

2012 年 6 月 22 日、アストラゼネカは、欧州医薬品審査庁 (EMA) の医薬品委員会 (CHMP) が複雑性皮膚・軟部組織感染症 (cSSTI) または市中肺炎 (CAP) の成人患者を治療するための新しい静脈注射用セファロスポリン系抗生物質である Zinforo (ceftaroline fosamil) の承認を推奨する肯定的見解を採択したことを発表しました。CHMP の肯定的見解は、EU 域内の医薬品承認権限を持つ欧州委員会によって審査されます。

Ceftaroline fosamil は、セファロスポリン系薬剤の確立された忍容性に加え、複雑性皮膚・軟部組織感染症 (cSSTI) におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) や CAP における肺炎連鎖球菌などの治療困難な菌株を含む重篤な皮膚感染症および肺炎の原因となる幅広い細菌を効果的に網羅する特性を兼ね備えた初の単剤療法の抗生物質です。

2009 年、Forest Laboratories は、米国、カナダ、日本を除く ceftaroline fosamil の世界的独占販売権および共同独占開発権をアストラゼネカに供与しました。Forest は、米国において 2011 年 3 月、TEFLARO[®] の商標で同様の適応をもって発売しました。

アストラゼネカは、多くの国で規制当局に申請を行い、販売権を取得しており、2012 年度にさらなる申請を予定しています。

アドレアバイオサイエンス

2012年6月19日、アストラゼネカはアドレアバイオサイエンス（カリフォルニア州サンディエゴ）の買収を完了したことを発表しました。

アドレアの臨床試験段階で最も進んだ製品候補である lesinurad（旧名称 RDEA594）は現在、痛風患者の高尿酸血症の慢性期管理用の治療薬候補として、第III相段階で開発されています。

売上高

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）。

製品別、地域別のグループ売上高の完全な分析は、注7、8を参照。

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2012 100万 ドル	2011 100万 ドル		2012 100万 ドル	2011 100万 ドル	
消化器						
ネキシウム	949	1,112	-13	1,902	2,273	-15
Losec/Prilosec (オメプラール)	195	239	-16	365	474	-22
循環器						
クレストール	1,587	1,714	-5	3,087	3,192	-2
Atacand	269	385	-25	586	740	-18
セロケン/Toprol-XL	208	232	-7	432	477	-7
ONGLYZA™	79	46	+72	151	81	+86
Brilinta/Brilique	18	2	n/m	27	3	n/m
呼吸器および炎症						
シムビコート	795	802	+3	1,518	1,554	+1
パルミコート	206	236	-10	433	484	-9
オンコロジー						
ゾラデックス	275	302	-6	548	577	-3
アリミデックス	147	181	-16	291	414	-29
カソデックス	118	138	-13	231	271	-15
イレッサ	154	139	+13	297	260	+15
フェソロデックス	161	135	+24	312	258	+24
Caprelsa	7	2	n/m	12	2	n/m
ニューロサイエンス						
セロクエル	647	1,537	-57	1,785	2,882	-37
セロクエル IR	277	1,150	-75	1,031	2,156	-52
セロクエル XR	370	387	-1	754	726	+6
ゾーミッグ	48	103	-50	102	204	-49
Vimovo	17	6	+200	33	10	+240
感染症・その他						
Synagis	55	48	+15	439	456	-4
Merrem	100	158	-33	200	330	-37
FluMist	2	-	n/m	4	3	+33

消化器

- ネキシウムの米国の第2四半期の売上は前年同期比10%減の5億5,400万ドルでした。小売部門の調剤量は10%減少しました。低利益率のメディケイド処方大幅に減少したため、製品ミックスが変わり、平均小売価格がわずかに上昇しました。上半期の米国でのネキシウムの売上も10%減の10億8,900万ドルでした。
- ネキシウムの米国以外の第2四半期の売上は16%減の3億9,500万ドルでした。西ヨーロッパの売上は、主に後発品の競合の影響を受けて37%減でした。米国・西ヨーロッパ以外の既成市場の売上は、カナダの後発品との競合の影響により、15%減でした。ネキシウムのそのほかの市場での売上は21%減の8億1,300万ドルでした。
- Losecの米国以外の第2四半期の売上は17%減の1億8,600万ドルでした。上半期の売上は23%減の3億4,800

万ドルでした。

循環器

- クレストールの米国の第 2 四半期の売上は、1%減の 7 億 8,700 万ドルでした。スタンチン製剤の米国の総処方量は、第 2 四半期に 1.3%増加しました。クレストールの総処方量は、昨年 11 月のアトルバスタチン後発品の発売や 2012 年 5 月末の 180 日間の独占期間の終了後多くの後発品の発売による影響をほとんど受けず、1.5%増加しました。クレストールの米国の上半期の売上は、1%減の 14 億 6,900 万ドルでした。
- 米国以外のクレストールの第 2 四半期の売上は、2012 年 4 月、カナダで特許訴訟の和解により独占権を喪失したことを反映して、8%減の 8 億ドルでした。その結果、第 2 四半期のカナダでの売上は 48%減少しました。カナダを除く米国以外の売上は、中国を中心とした新興市場と日本における成長により、1%増加しました。クレストールの米国以外での上半期の売上は、3%減の 16 億 1,800 万ドルでした。
- 自社後発品の売上を含む Toprol-XL 製品レンジの第 2 四半期の米国の売上は、昨年 3 つ目の後発品が発売されたことを受けて小売価格が低下した結果、21%減の 7,200 万ドルでした。米国の上半期の売上は 24%減の 1 億 4,500 万ドルでした。
- セロケンの米国以外の売上は、新興市場の 5%増を受けて、2%増の 1 億 3,600 万ドルでした。上半期の売上は、4%増の 2 億 8,700 万ドルでした。
- Atacand の米国の第 2 四半期の売上は 27%減の 3,600 万ドルでした。上半期の売上は 20%減の 7,600 万ドルでした。
- Atacand の米国以外の第 2 四半期の売上は、25%減の 2 億 3,300 万ドルでした。これは主に、独占権を喪失したことにより西ヨーロッパでの売上が 30%、カナダでの売上が 60%減少したことが大きく影響したためです。上半期の米国以外の売上は、17%減の 5 億 1,000 万ドルでした。
- ブリストル・マイヤーズ スクイブ社との提携から生じる第 2 四半期の ONGLYZA™ の提携収入は 72%増の 7,900 万ドルでした。そのうち 5,800 万ドルは米国、2,100 万ドルは米国以外での売上でした。米国の DPP4 市場の総処方数のうち ONGLYZA™ のシェアは、2012 年 6 月に 11.5%でした。KOMBIGLYZE XR™ は、6 月に米国のフランチャイズに対する総処方シェアをさらに 5.4%拡大しました。上半期の全世界での提携収入は、1 億 5,100 万ドルでした。
- Brilinta/Brilique の第 2 四半期の売上は 1,800 万ドルで、うち 1,200 万ドルは西ヨーロッパでの売上でした。ドイツ、フランスでの薬価交渉が成功裏に完了し、2012 年 7 月の発売を下支えしています。ドイツでは、Brilique がプロトコルに記載されている目標病院の 85%において、Brilique がプラスグレルとクロピドグレルを抑えて、初期 ACS 患者を対象にした抗血小板薬のトップ製品となっています。Brilique は小売市場のダイナミックシェア第 2 位で、経口抗血小板治療薬の 8.5%を占めています。米国での第 2 四半期の売上は 300 万ドルで、ほとんどの上市在庫がすでに流通網に乗ったことで再発注が増加し、再受注が加速しています。当社は、処方アクセス、プロトコルの採用、およびインターベンションを行う心臓専門医師による製品試用率に関して着実に前進し続けています。
- Brilinta/Brilique の上半期の売上は 2,700 万ドルでした。

呼吸器および炎症

- シムビコート®の米国の売上は前年同期比 21%増の 2 億 4,900 万ドルでした。シムビコート®の総処方量は、定量配合剤の市場が 1%増であったのに対して、12%増でした。定量配合剤の新規処方量に占めるシムビコート®のシェアは、2011 年 12 月から 1%増加して、2012 年 6 月に 22.5%に達しました。新規配合剤治療の新規患者での市場シェアは 27.2%です。シムビコート®の米国での上半期の売上は 16%増の 4 億 6,600 万ドルでした。
- シムビコート®の米国以外の第 2 四半期の売上は、3%減の 5 億 4,600 万ドルでした。西ヨーロッパの売上は 5%減でした。米国、西ヨーロッパ以外の既成市場の売上は 6%増加しました。日本での売上は、マーケティングパートナーへの製品出荷が市場の潜在需要に追いつかず 2%減少しました。新興市場での売上は 3%減でした。シムビコート®の米国以外での上半期の売上は 5%減の 10 億 5,200 万ドルでした。
- パルミコート®の米国の第 2 四半期の売上は 32%減の 6,000 万ドルでした。上半期の売上は、30%減の 1 億 1,600 万ドルでした。

- パルミコート[®]の米国以外の第 2 四半期の売上は、中国での売上が 42%増加したことに牽引され、3%増の 1 億 4,600 万ドルでした。パルミコート[®]の米国以外の上半期の売上は前年上半期比 2%増の 3 億 1,700 万ドルでした。

オンコロジー

- アリミデックス[®]の米国での第 2 四半期の売上は 600 万ドルで、上半期では 1,300 万ドルでした。
- アリミデックス[®]の米国以外の第 2 四半期の売上は、15%増の 1 億 4,100 万ドルでした。西ヨーロッパの売上は、独占権を失ったことを反映して 29%減の 3,600 万ドルでした。日本の売上は前年と変わりありませんでした。新興市場の売上は 15%減でした。アリミデックス[®]の米国以外での上半期の売上は 27%減の 2 億 7,800 万ドルでした。
- カソデックス[®]の米国以外での第 2 四半期の売上は、13%減の 1 億 2,000 万ドルでした。売上の 60%以上を日本が占めており、日本の第 2 四半期の売上は 15%減でした。西ヨーロッパの売上は 27%減でした。新興市場の売上は 4%増でした。カソデックス[®]の米国以外での上半期の売上は 15%減の 2 億 3,300 万ドルでした。
- イレッサ[®]の第 2 四半期の売上は、13%増の 1 億 5,400 万ドルでした。新興市場の売上は 16%増でした。西ヨーロッパでの売上は 12%増でした。日本での売上は 10%増でした。イレッサ[®]の全世界での上半期の売上は 15%増の 2 億 9,700 万ドルでした。
- フェソロデックス[®]の米国の売上は 15%増の 7,500 万ドルでした。新しい 500 mg 用量レジメンは多くの市場で広く採用されており、上半期におけるこの用量増の一部は、フェソロデックス[®]を利用した治療を受けている患者が増加したことを反映しています。米国の上半期の売上は 16%増の 1 億 4,700 万ドルでした。
- フェソロデックス[®]の米国以外での第 2 四半期の売上は 31%増の 8,600 万ドルで、この増加の約 60%を日本が占めています。西ヨーロッパの当四半期の売上は 4%増、新興市場での売上は 35%増でした。米国以外での上半期の売上は 32%増の 1 億 6,500 万ドルでした。

ニューロサイエンス

- セロクエル[®]フランチャイズの米国での第 2 四半期の売上は、2012 年 3 月末にセロクエル IR の独占権を喪失したことを受けて、70%減の 3 億 2,300 万ドルでした。セロクエル IR の当四半期の売上は 86%減の 1 億 2,600 万ドルでした。7 月 13 日の週で、クエチアピン分子群におけるセロクエル IR の処方シェアは 6.2%に減少しました。セロクエル IR の米国の上半期の売上は 59%減の 6 億 6,800 万ドルでした。
- セロクエル XR の米国での第 2 四半期の売上は 4%減の 1 億 9,700 万ドルでした。セロクエル XR の総処方量は、米国の非定型抗精神病薬市場の 1%減に対し、3%減でした。前年と比較して数件の在庫調整が発生したものの、当期の有利な原価差異により大部分が相殺されました。セロクエル XR の米国での上半期の売上は 4%増の 3 億 9,600 万ドルでした。
- セロクエル[®]フランチャイズの米国以外での第 2 四半期の売上は、多くの市場でセロクエル IR の独占権を喪失したことを反映して 22%減の 3 億 2,400 万ドルでした。セロクエル IR の売上は 39%減の 1 億 5,100 万ドルで、これは主に西ヨーロッパでの売上が 61%減少したことによるものです。米国以外の上半期のセロクエル IR の売上は 28%減の 3 億 6,300 万ドルでした。
- セロクエル XR の米国以外の第 2 四半期の売上は 3%増の 1 億 7,300 万ドルでした。西ヨーロッパの売上は 6%減でした。これは主に、ドイツで後発品が「見切り発車」で発売されたことによるもので、フランスでの発売後の順調な売れ行きにより一部相殺されました。セロクエル XR の売上は、米国・西ヨーロッパ以外の既成市場で 4%増、新興市場で 40%増でした。セロクエル XR の米国以外での上半期の売上は、前年比 9%増の 3 億 5,800 万ドルでした。
- ゴーミッグ[®]の米国での第 2 四半期の売上は 200 万ドルでした。米国でのゴーミッグ[®]販売権は Impax Laboratories 社に導出されており、アストラゼネカの受ける米国でのゴーミッグ[®]の商業的寄与は売上ではなくその他収入として計上しています。ゴーミッグ[®]の米国以外での当四半期の売上は 25%減の 4,600 万ドルでした。
- Vimovo の第 2 四半期の売上は 1,700 万ドルで、そのうち 600 万ドルが米国、1,100 万ドルが米国以外での売上でした。

感染症・その他

- Synagis の米国の第 2 四半期の売上は、ウイルスシーズンでなかったこともあり 100 万ドルでした。米国以外での第 2 四半期の売上は、当社の国際代理店アボット社への四半期ごとの出荷調整を反映して、26%増の 5,400 億ドルでした。
- 通常の季節性に沿って、上半期の FluMist の売上は、微々たるものでした。
- Merrem の上半期の売上は、多くの市場で後発品が競合した結果、37%減の 2 億ドルでした。

地域別売上

	第 2 四半期		前年		上半期		前年	
	2012	2011	同期比 (%)		2012	2011	同期比 (%)	
	100 万ドル	100 万ドル	前年同期比	CER	100 万ドル	100 万ドル	実質	CER
米国	2,339	3,292	-29	-29	5,259	6,596	-20	-20
西ヨーロッパ ¹	1,626	2,194	-26	-20	3,401	4,429	-23	-20
ROW の既成市場 ²	1,284	1,476	-13	-12	2,522	2,797	-10	-11
カナダ	286	423	-32	-30	663	840	-21	-19
日本	723	736	-2	-2	1,321	1,367	-3	-6
その他の ROW の既成市場	275	317	-13	-11	538	590	-9	-10
ROW の新興市場 ³	1,411	1,468	-4	+1	2,827	2,900	-3	+1
ヨーロッパの新興市場	283	316	-10	+1	577	636	-9	-
中国	349	303	+15	+12	729	625	+17	+12
アジア太平洋の新興市場	229	242	-5	-2	462	484	-5	-2
その他の ROW の新興市場	550	607	-9	-2	1,059	1,155	-8	-3
合計	6,660	8,430	-21	-18	14,009	16,722	-16	-15

¹ 西ヨーロッパを構成するのは、フランス、ドイツ、イタリア、スウェーデン、スペイン、英国などです。

² ROW (米国・西ヨーロッパ以外の地域) の既成市場を構成するのは、カナダ、日本、オーストラリアおよびニュージーランドです。

³ ROW の新興市場を構成するのは、ブラジル、中国、インド、メキシコ、ロシア、トルコ、およびその他すべての ROW 諸国です。

- 米国の第 2 四半期の売上は 29%減で、セロクエル IR の独占権喪失がこの売上減少の 80%を占めています。米国の医療保険制度改革政策による当四半期の売上高とコストへの影響の合計は約 1 億 5,000 万ドルでした。シムビコート、ONGLYZATM、およびフェソロデックスは順調に成長しましたが、アストラテックの売却、並びに進行中の Aptium の売却による売上減によって相殺されました。
- 西ヨーロッパの第 2 四半期の売上は 20%減でした。セロクエル IR の独占権を喪失したことに加え、ネキシウム、Atacand、Merrem の後発品との競合がさらに売上を減少させました。これら 4 製品は、当四半期の売上減少の半分以上を占めています。
- 米国・西ヨーロッパ以外の既成市場での第 2 四半期の売上は 12%減でした。カナダでの売上は 30%減でした。Atacand の独占権喪失に加え、以前開示した特許訴訟の和解により、4 月にカナダ市場に参入したクレストールの後発品との競合が発生したためです。日本での売上は、数量ベースの伸びが価格低下を大幅に相殺し、2%減でした。
- 新興市場の第 2 四半期の売上は、ブラジルでのセロクエル IR およびクレストールの独占権の喪失、メキシコの厳しい市場状況を反映して 1%増でした。サプライチェーンの問題が新興市場の売上に影響し、この影響を調整すると、売上は約 8%増でした。中国ではクレストール、パルミコート、セロケンが順調に推移し、売上は 12%増でした。当社は、下半期には新興市場の売上は回復すると予想していますが、年間 2 桁成長の達成は厳しい可能性があります。

要約連結包括利益計算書

上半期	2012年 100万ドル	2011年 100万ドル
売上高	14,009	16,722
売上原価	(2,721)	(2,821)
売上総利益	11,288	13,901
物流費	(151)	(168)
研究開発費	(2,719)	(2,360)
販売・一般管理費	(4,811)	(5,376)
その他営業損益	421	369
営業利益	4,028	6,366
金融収益	261	273
金融費用	(473)	(493)
税引前利益	3,816	6,146
税金	(556)	(1,108)
当期利益	3,260	5,038
その他の包括利益：		
連結に伴う為替換算損益	22	246
純投資ヘッジを形成する借入金における為替差損益	18	(113)
キャッシュフローヘッジの損失の償却	1	1
売却可能有価証券評価益	7	18
年金数理による当期利益（損失）	(349)	156
その他の包括利益に係る法人所得税	40	(6)
当期包括利益（税引後）	(261)	302
当期包括利益合計	2,999	5,340
当期利益の帰属：		
親会社の所有者	3,251	5,020
非支配持分	9	18
	3,260	5,038
包括利益合計の帰属：		
親会社の所有者	2,995	5,318
非支配持分	4	22
	2,999	5,340
額面 0.25 ドル普通株式 1 株当たり利益	\$2.55	\$3.61
希薄化後額面 0.25 ドル普通株式 1 株当たり利益	\$2.55	\$3.60
加重平均発行済普通株式数（百万株）	1,274	1,389
希薄化後加重平均発行済普通株式数（百万株）	1,277	1,395

要約連結包括利益計算書

第 2 四半期	2012 年 100 万ドル	2011 年 100 万ドル
売上高	6,660	8,430
売上原価	(1,346)	(1,482)
売上総利益	5,314	6,948
物流費	(75)	(88)
研究開発費	(1,189)	(1,198)
販売・一般管理費	(2,350)	(2,868)
その他営業損益	168	171
営業利益	1,868	2,965
金融収益	129	136
金融費用	(234)	(243)
税引前利益	1,763	2,858
税金	(145)	(735)
当期利益	1,618	2,123
その他の包括利益：		
連結に伴う為替換算損益	(99)	38
純投資ヘッジを形成する借入金における為替差損益	68	(21)
キャッシュフローヘッジの損失の償却	1	1
売却可能有価証券評価益	(11)	7
年金数理による当期利益（損失）	(423)	174
その他の包括利益に係る法人所得税	86	(33)
当期包括利益（税引後）	(378)	166
当期包括利益合計	1,240	2,289
当期利益の帰属：		
親会社の所有者	1,611	2,113
非支配持分	7	10
	1,618	2,123
包括利益合計の帰属：		
親会社の所有者	1,228	2,273
非支配持分	12	16
	1,240	2,289
額面 0.25 ドル普通株式 1 株当たり利益	\$1.27	\$1.53
希薄化後額面 0.25 ドル普通株式 1 株当たり利益	\$1.27	\$1.53
加重平均発行済普通株式数（百万株）	1,267	1,381
希薄化後加重平均発行済普通株式数（百万株）	1,269	1,387

要約連結財政状態計算書

	2012年 6月30日 現在 100万ドル	2011年 12月31日 現在 100万ドル	2011年 6月30日 現在 100万ドル
資産			
非流動資産			
有形固定資産	6,047	6,425	6,832
営業権	9,887	9,862	9,877
無形資産	13,609	10,980	12,072
金融派生商品	324	342	319
その他の長期投資	167	201	218
繰延税金資産	1,579	1,514	1,397
	<u>31,613</u>	<u>29,324</u>	<u>30,715</u>
流動資産			
棚卸資産	2,039	1,852	2,021
売掛金及びその他の債権	7,462	8,754	8,320
その他の投資	1,555	4,248	679
金融派生商品	8	25	3
未収法人所得税	1,072	1,056	1,538
現金及び現金同等物	7,641	7,571	9,613
売却目的に分類された資産*	-	-	517
	<u>19,777</u>	<u>23,506</u>	<u>22,691</u>
資産合計	<u>51,390</u>	<u>52,830</u>	<u>53,406</u>
負債			
流動負債			
有利子負債・借入金	(2,008)	(1,990)	(372)
買掛金及びその他の債務	(8,972)	(8,975)	(8,513)
金融派生商品	-	(9)	-
引当金	(1,083)	(1,388)	(1,097)
未払法人所得税	(2,738)	(3,390)	(3,660)
売却目的に分類された負債*	-	-	(196)
	<u>(14,801)</u>	<u>(15,752)</u>	<u>(13,838)</u>
非流動負債			
有利子負債・借入金	(7,310)	(7,338)	(9,210)
繰延税金負債	(2,836)	(2,735)	(3,034)
退職給付債務	(2,523)	(2,674)	(2,354)
引当金	(432)	(474)	(685)
その他の債務	(1,248)	(385)	(470)
	<u>(14,349)</u>	<u>(13,606)</u>	<u>(15,753)</u>
負債合計	<u>(29,150)</u>	<u>(29,358)</u>	<u>(29,591)</u>

純資産	22,240	23,472	23,815
資本			
親会社の所有者に帰属する資本金および準備金			
資本金	315	323	341
株式払込剰余金	3,328	3,078	3,010
その他の積立金	1,971	1,951	1,915
利益剰余金	16,412	17,894	18,340
	22,026	23,246	23,606
非支配持分	214	226	209
資本合計	22,240	23,472	23,815

* 2011年6月30日時点で売却目的に分類された資産および負債は、アストラテックの資産および負債

要約連結キャッシュ・フロー計算書

上半期	2012年 100万ドル	2011年 100万ドル
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前利益	3,816	6,146
金融収益および費用	212	220
減価償却費、償却費および減損損失	1,009	1,037
運転資本および短期引当金の増加（減少）	98	(1,053)
非現金その他の変動	(516)	(236)
営業活動から得られたキャッシュ	4,619	6,114
支払利息	(285)	(282)
支払税金	(1,543)	(3,003)
営業活動による正味キャッシュ・フロー	2,791	2,829
投資活動によるキャッシュ・フロー		
短期投資および固定性預金の変動	2,805	852
有形固定資産の取得	(259)	(381)
有形固定資産の売却	148	46
無形固定資産の取得	(224)	(294)
非流動投資の取得	(5)	(6)
非流動投資の売却	25	-
事業活動の買収	(1,187)	-
受取利息	71	85
子会社による非支配持分に対する支払	(21)	(16)
投資活動による正味キャッシュ・フロー	1,353	286
財務活動前の正味キャッシュ・イン・フロー	4,144	3,115
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	252	340
自社株式の取得による支出	(1,854)	(2,544)
支払配当金	(2,505)	(2,646)
支払配当金に関連するヘッジ契約	13	41
短期借入金の変動	(62)	19
財務活動による正味キャッシュ・アウト・フロー	(4,156)	(4,790)
当期現金及び現金同等物の正味減少額	(12)	(1,675)
現金及び現金同等物期首残高	7,434	10,981
売却目的に再分類された金額	-	(47)
為替変動による影響	(8)	40
現金及び現金同等物期末残高	7,414	9,299
現金及び現金同等物の内訳：		
現金及び現金同等物	7,641	9,613
当座貸越	(227)	(314)
	7,414	9,299

要約連結持分変動計算書

	資本金 100万ドル	株式払込 剰余金 100万ド ル	その他* の積立金 100万ド ル	利益 剰余金 100万ドル	合計 100万ドル	非支配 持分 100万ドル	資本 合計 100万ドル
2011年1月1日現在	352	2,672	1,917	18,272	23,213	197	23,410
当期利益	-	-	-	298	298	4	302
その他の包括利益	-	-	(15)	15	-	-	-
その他の積立金への振替							
所有者との取引：	-	-	-	5,020	5,020	18	5,038
配当金	-	-	-	(2,594)	(2,594)	-	(2,594)
普通株式の発行	2	338	-	-	340	-	340
自己株式の取得	(13)	-	13	(2,544)	(2,544)	-	(2,544)
株式報酬	-	-	-	(127)	(127)	-	(127)
非支配持分から支払債務 への振替	-	-	-	-	-	(6)	(6)
非支配持分に対する配当 金	-	-	-	-	-	(4)	(4)
純変動	(11)	338	(2)	68	393	12	405
2011年6月30日現在	341	3,010	1,915	18,340	23,606	209	23,815
	資本金 100万ドル	株式払込 剰余金 100万ド ル	その他* の積立金 100万ド ル	利益 剰余金 100万ドル	合計 100万ドル	非支配 持分 100万ドル	資本 合計 100万ドル
2012年1月1日現在	323	3,078	1,951	17,894	23,246	226	23,472
当期利益	-	-	-	3,251	3,251	9	3,260
その他の包括利益	-	-	-	(256)	(256)	(5)	(261)
その他の積立金への振替	-	-	10	(10)	-	-	-
所有者との取引：	-	-	-	(2,495)	(2,495)	-	(2,495)
配当金	-	-	-	(2,495)	(2,495)	-	(2,495)
普通株式の発行	2	250	-	-	252	-	252
自己株式の取得	(10)	-	10	(1,854)	(1,854)	-	(1,854)
株式報酬	-	-	-	(118)	(118)	-	(118)
非支配持分から支払債務 への振替	-	-	-	-	-	(5)	(5)
非支配持分に対する配当 金	-	-	-	-	-	(11)	(11)
純変動	(8)	250	20	(1,482)	(1,220)	(12)	(1,232)
2012年6月30日現在	315	3,328	1,971	16,412	22,026	214	22,240

* その他の積立金には、資本償還準備金や合併準備金が含まれます。

上半期財務報告書に関する取締役の責任表明

当社は、知る限りにおいて、以下のことを確認します。

- 要約財務諸表は、欧州連合によって採択された IAS 34 中間財務報告に従って作成されています。
- 上半期の経営者報告書には、以下で要求される情報の公正なレビューが含まれています。
 - (a) 情報開示と透明性に関する規則の DTR 4.2.7R—会計年度の最初の 6 カ月間に発生した重要な出来事、それらの出来事が要約財務諸表に及ぼす影響、ならびに年度の残り 6 カ月間の主なリスクと不確実性に関する説明
 - (b) 情報開示と透明性に関する規則の DTR 4.2.8R—現在の会計年度の最初の 6 カ月間に行われ、事業体の当該期間の財務状態または業績に大きな影響を及ぼした関係者取引、ならびに昨年度の年次報告書で説明された関係者取引における変更

取締役会

2012 年 6 月 30 日までの 6 カ月間の全部または一部において業務を担当した取締役会とそれぞれの職務は、2012 年 4 月 26 日に任命されたリーフ・ヨハンソン、グラハム・チップチェイス、およびジュヌヴィエーヴ・ベルジェを除き、アストラゼネカのアニュアルレポートおよび 2011 年米国証券取引委員会（SEC）への提出書類 20-F の 100 ページおよび 101 ページに記載されています。2012 年 4 月 26 日、ミシェル・フーパーが取締役会を退任しました。2012 年 6 月 1 日、デビッド・ブレナンとルイ・シュヴァイツァーが取締役会を退任しました。2012 年 6 月 1 日、リーフ・ヨハンソンが非常勤会長に指名され、サイモン・ラウスが暫定最高経営責任者（CEO）に指名されました。

取締役会が承認、代表として署名

サイモン・ロース
最高経営責任者（CEO）代理
2012 年 7 月 26 日

AstraZeneca PLC への第三者レビュー報告書

概要

当社は、当該企業より、要約連結包括利益計算書、要約連結財政状態計算書、要約連結キャッシュ・フロー計算書、要約連結持分変動計算書、および注記 1~7 から構成される 2012 年 6 月 30 日までの 6 カ月間（2012 年 6 月 30 日までの四半期ではない）に関する上半期財務報告書の要約財務諸表のレビューを委託されました。上半期財務報告書に含まれるその他の方法に目を通し、要約財務諸表の情報に明らかな誤りや重大な矛盾が含まれないかどうかを検討しました。

この報告書は、英国金融サービス機構（以下「UK FSA」と称する）の情報開示と透明性に関する規則（以下「DTR」と称する）の要件を当該企業が満たせるように支援する契約の条件に従い、当該企業のためだけに作成されたものです。当社のレビューは、本報告書で当該企業に伝達する義務がある事項を当該企業に伝達できるように実施されたものであり、それ以外の目的を有するものではありません。法律で認められる限り、当社は、レビュー業務、本報告書、あるいは導き出した結論について、当該企業以外に対する責任を負いません。

取締役の責任

上半期財務報告書は、取締役の責任で、取締役によって承認されています。取締役は、UK FSA の DTR に従って上半期財務報告書を作成する責任を負っています。

注記 1 に開示したとおり、グループの年次財務諸表は、欧州連合（以下「EU」と称する）によって採択され、国際会計基準審議会（以下「IASB」と称する）によって発行された国際財務報告基準（以下「IFRS」と称する）に従って作成されています。本上半期財務報告書に含まれる要約財務諸表は、EU によって採択された IAS 34 中間財務報告に従って作成されています。

当社の責任

当社の責任は、レビューに基づき、上半期財務報告書に含まれる要約財務諸表に関する結論を当該企業に表明することです。

レビューの範囲

当社は、英国国内での使用に関して、監査実務審議会によって発行された国際レビュー業務基準（英国およびアイルランド）2410「事業体の第三者監査役による中間財務情報のレビュー」に従ってレビューを実施しました。中間財務情報のレビューには、主に財務・会計問題の担当者を対象とした聞き取りと、分析その他のレビュー手順の適用が含まれます。レビューは、国際監査基準（英国およびアイルランド）に従って実施される監査よりも範囲は大幅に狭くなるため、監査で特定される可能性がある重大な問題が認識されているという保証はありません。したがって、当社は、監査意見を表明しません。

結論

レビューに基づき、2012 年 6 月 30 日までの上半期財務報告書に含まれる要約財務諸表に関して、あらゆる重要な点において EU および UK FSA の DTR によって採択された IAS 34 に従って作成されていないと判断されるような注意を要する事項は認められませんでした。

ジミー・ダブー

KPMG Audit Plc 代表

公認会計士

15 Canada Square
London E14 5GL

2012 年 7 月 26 日

期中財務諸表の注記

1 表示の基礎および会計方針

2012年6月30日までの上半期の要約連結期中財務諸表（「期中財務諸表」）は、欧州連合によって採択されたIAS34中間財務報告に従って作成されました。グループの年次財務諸表は、欧州連合によって採択され、国際会計基準審議会によって発行された国際財務報告基準（IFRS）に従って作成されました。金融サービス機構が定めた情報開示と透明性に関する規則に従い、新しいあるいは改訂された会計基準の適用がない限り、期中財務諸表は、すでに発行されている2011年12月31日までの連結財務諸表と同じ会計方針および計算方法を使用して作成されています。今期は、新しいあるいは改訂された会計基準の適用によるグループの利益や純資産への大きな影響はありませんでした。

グループは多くの財源を保有しています。グループの収入は、主に、特許で保護されている製品や、少なくともこれまでは需要が経済変動の影響を受けにくかった製品の売上から生じています。結果的に、取締役会は、グループがそのビジネスリスクを成功裡に管理する十分な体制にあり、期中財務諸表は継続企業の前提で作成されています。

注6に含まれる情報は、グループのアンニュアルレポートおよび2011年米国証券取引委員会（SEC）への提出書類20-Fに記載された法的手続きと偶発債務に関する開示情報を更新するものです。

2011年12月31日までの会計年度の比較数値は、当社の会計年度の法定計算書類ではありません。これらの計算書類は、グループの監査人によって報告され、株式登録機関に提供されました。監査人の報告は、(i) 無限定適正であり、(ii) 監査人が報告に限定を加えることなく強調して注意を促したい事項はなく、(iii) 2006年会社法の498節(2)または(3)の規定に該当する事項を含まないものでした。

2 正味資金

以下の表では、正味資金を分析し、正味資金の変動に応じて正味キャッシュ・フローを調整しています。

	2012年 1月1日 現在 100万ドル	キャッシ ュ・フロ ー 100万ド ル	買収 100万ドル	非現金 変動 100万ドル	為替 変動 100万ドル	2012年 6月30日 現在 100万ド ル
1年超返済予定借入金	(7,338)	-	-	9	19	(7,310)
1年内返済予定長期借入金	(1,769)	-	-	13	-	(1,756)
借入金合計	(9,107)	-	-	22	19	(9,066)
その他の投資－短期	4,248	(2,805)	102	14	(4)	1,555
金融派生商品	358	(13)	-	(13)	-	332
現金及び現金同等物	7,571	78	-	-	(8)	7,641
当座貸越	(137)	(90)	-	-	-	(227)
短期借入金	(84)	62	-	-	(3)	(25)
	11,956	(2,768)	102	1	(15)	9,276
正味資金	2,849	(2,768)	102	23	4	210

当期の非現金変動には、IAS 39に規定された公正価値調整が含まれます。

3 事業再構築費用

2012年6月30日までの上半期の税引前利益は、9億700万ドルの事業再構築費用（前年同期は2億500万ドル）を含めて計上されています。以下の項目にて、利益から控除されています。

	2012年 第2四半期 100万ドル	2011年 第2四半期 100万ドル	2012年 上半期 100万ドル	2011年 上半期 100万ドル
売上原価	6	20	61	32
研究開発費	136	79	581	169
販売・一般管理費	63	39	265	80
合計	205	138	907	281

4 アルデアの買収

2012年6月19日、アストラゼネカはアルデアバイオサイエンスの買収を完了しました。アルデアは米国（カリフォルニア州サンディエゴ）に本社を持つバイオテクノロジー企業で、主に重篤な疾病の治療に向けた低分子化合物の開発を行っています。アストラゼネカは12億6,800万ドルでアルデア株の100%を取得しました。

ほとんどの事業買収には、買収した識別可能資産および負債の決算期に属さない費用の一部があり、のれんとして認識されます。Ardea社の買収では、個別には定量化できない多くの要素によってのれんが構成されています。これらのうち最も重要なものは、熟練した従業員と痛風領域で積み上げた経験に帰するプレミアムです。

アルデアの業績は、2012年6月20日から当社の業績に連結されています。買収から2012年6月30日までの期間におけるアルデアの売上高と純損失は軽微でした。2012年6月30日までの6カ月間におけるアルデアの売上高は1,000万ドル、純損失は7,000万ドルでした。

	帳簿価額 100万ドル	公正価値の調整 100万ドル	公正価値 100万ドル
非流動資産			
無形資産	-	1,464	1,464
その他	4	-	4
	4	1,464	1,468
流動資産	199	-	199
流動負債	(31)	(1)	(32)
非流動負債			
繰延税金負債	-	(397)	(397)
	-	(397)	(397)
買収した総資産	172	1,066	1,238
営業権			30
買収金額の公正価値			1,268
－現金取得額			(81)
キャッシュ・アウト・フロー			1,187

5 メルクとの契約の会計への影響

1982年、アストラ AB は、米国でのアストラ製品の営業、販売、流通を目的として、メルク（シェリング・プラウとの合併によって新生メルクの子会社となったメルク・シャープ&ドーム）（以下「メルク」と称する）との合併企業を設立しました。1998年、この合併企業は再編されました（以下「事業再編」と称する）。事業再編に関連する契約（以下「契約」と称する）に基づき、メルクを有限責任組合員、アストラゼネカを無限責任組合員とする米国限定の提携（以下「提携」と称する）が設立され、アストラゼネカは特定の有限責任組合員に属する合併企業の事業とメルクおよびその関連会社が保有するその他の権利を獲得しました。これらの権利により、メルクに提携の業務に対する保護がもたらされ、アストラゼネカの商業的な営業の自由が制限されます。契約では、以下が部分的に規定されます。

- 年間の偶発的対価
- メルクがアストラゼネカの製品と業務（必須も任意も含む）を譲渡するための解除の取り決め

詳細は、アニュアルレポートおよび2011年米国証券取引委員会（SEC）への提出書類20-Fに示されています。

2008年度のメルクへの支払い

以前に開示したとおり、2008年3月17日、アストラゼネカは、一部引き取り、調整、受取手形に関連して約26億ドルの正味現金払いを行いました。この支払いにより、アストラゼネカは、特定のアストラゼネカ製品（パルミコート、Rhinocort、シムビコート、Toprol-XLを含む）におけるメルクの持分を取得し、これらの製品に関するアストラゼネカの偶発的対価の支払いを中止し、これらの製品と呼吸器治療領域のその他の機会を利用できるようになりました。その時点で、第1オプションと第2オプション（以下を参照）に関連する将来的な製品の権利に対する支払いに相当する正味支払いの残高（16億5,600万ドル）と共に、9億9,400万ドルの無形資産が認識されました。これらの「払い戻し不可の保証金」は、無形資産として分類されました。

第1オプション

以前に開示したとおり、2010年2月26日、アストラゼネカは第1オプションを行使しました。2010年4月30日、メルクに6億4,700万ドルが支払われました。この支払いにより、アストラゼネカは、第1オプションに含まれる製品（Entocort、Atacand、Plendilなど）、フェロジピンの自社後発品、および当時開発中であった製品（主にBrilintaとlesogaberan）におけるメルクの持分を取得しました。2010年4月30日、この日以降の期間に関して、これらの製品

(フェロジピンの自社後発品を除く)に対する偶発的対価が中止され、アストラゼネカは、これらの製品と呼吸器およびニューロサイエンス治療領域のその他の機会を利用できるようになりました。これらの権利は 18 億 2,900 万ドルと見積もられ、2010 年 2 月 26 日から無形資産として認識されています(メルクへの 6 億 4,700 万ドルの支払いを補填するため、払い戻し不可の保証金から 11 億 8,200 万ドルが移転されました)。残り 4 億 7,400 万ドルの払い戻し不可の保証金は、アストラゼネカが第 2 オプションを行使した時点で確保される利益に関連するものです(フェロジピンの自社後発品に対する偶発的対価は、アストラゼネカの第三者販売協定が終了するまで継続します。この協定は 2012 年 6 月に終了しましたが、販売代理店は、今後数カ月間、在庫を販売することができます)。

第 2 オプション

2012 年 6 月 26 日、アストラゼネカとメルクは、第 2 オプションに関して、特定の契約条項を修正することで合意しました。アストラゼネカは、この修正によって第 2 オプションの評価額の確度が向上し、以前の取り決めよりも有利であると考えており、予期せぬ状況が発生しなければ、2014 年に第 2 オプションを行使する予定です。

この修正の最も重要な部分は、アストラゼネカが第 2 オプションを行使する時期が変更され、オプション行使価格の特定の面を設定するための評価法に関して合意が得られたことです。修正された契約に基づき、メルク社、2014 年 3 月 1 日~2014 年 4 月 30 日に行使でき、2014 年 6 月 30 日に決算する新しい第 2 オプションをアストラゼネカに授与しました。アストラゼネカには、2017 年または年間合計売上高が最低金額を下回った場合に行使できるオプションも用意されます。

第 2 オプションの時期が変更されたことに加え、アストラゼネカとメルクは、2014 年のオプション行使価格の特定部分を設定するための評価法について合意に達しました。第三者による評価の代わりに、アストラゼネカとメルクによるネキシウムと *Prilosec* (オメプラール) の売上高予測の共通見解に基づき、2014 年の行使の評価額は合計 3 億 2,700 万ドルに固定されます。合意された金額は 2014 年 6 月 30 日に支払われ、2018 年に調整され、2014 年の決算から 2018 年 6 月までの期間に関する実際の売上高によって共通の予測が置き換えられます。

さらに、第 2 オプションの行使価格には、行使までの 3 年間におけるメルクの平均 1%の提携における年間利益配分の 10 倍に相当する金額も含まれます。アストラゼネカは、この金額を約 8,000 万ドルと予想しています。

Vimovo の将来の米国売上高の最大 5%に相当する正味現在価値を含み、まだ達成されていない年間売上高のしきい値とオプションを行使する時期によって正確な金額が決まる第 2 オプションの行使価格の構成部分は継続します。

修正に基づき、アストラゼネカが 2014 年に行使した場合、ネキシウムと *Prilosec* (オメプラール) を製造するメルクの既存の権利は決算の時点で喪失されます。

修正に関連して、メルクは、ネキシウムに関する特定の商業的機会を利用する柔軟性をアストラゼネカに認めました。

会計上、アストラゼネカは、第 2 オプションの行使が実質的に確実であり、もはやオプションとは言えないと見なしています。この会計上の重要な判断は、予期せぬ状況が発生しなければ、アストラゼネカは 2014 年に第 2 オプションを行使するつもりであり、第 2 オプションの価格はかなり有利であり、アストラゼネカが 2014 年に行使するための経済的な動機が生じるという経営陣の見解によって裏付けられます。そのため、アストラゼネカは、行使日を 2012 年 6 月 26 日(契約の修正日)として第 2 オプションを反映させる会計処理を適用しています。その結果、メルクに対し約 14 億ドルの負債が生じ(そのうち 10 億ドルを 2012 年 7 月 1 日~2014 年 6 月 30 日に月間の偶発対価によって支払い、残りを 2014 年 6 月 30 日に一括で支払う)、その日から無形資産が相応して増加します。

これらの無形資産は、第 1 オプションから繰り越された 4 億 7,400 万ドルに追加され、全体として、消化器治療領域の機会を利用する能力の価値と偶発的対価からの解放を反映します。

2012 年 6 月 26 日から無形資産の償却が開始され、年間約 1 億 4,000 万ドルの追加費用が販売・一般管理費に発生し、置き換える偶発的対価に広く相当する償却費が売上原価に発生します。アストラゼネカは、中核財務指標の計算から販売・一般管理費に発生する償却費のみを除外するため、これらの出来事によって中核財務指標にはわずかな影響しか生じません。

取得した製品の権利に関連する無形資産は、減損の査定を受け、製品から撤退するか、または影響を受ける治療領域の業務が大幅に削減された場合には、部分的または全面的に減損されます。

6 法的手続きと偶発債務

アストラゼネカは、製造物責任、商事紛争、知的財産権の侵害、特定特許の有効性、反トラスト法、営業・販売活動に関連する訴訟や調査など、業務上一般的と見なされるさまざまな法的手続きに関与しています。以下の項目は、当社のアニュアルレポートおよび2011年米国証券取引委員会（SEC）への提出書類20-Fにおける法的手続きの開示（「2011年開示」）以降の重要な進展です。以下または2011年開示で特に指摘されていない限り、以下の申し立てに関しては引当金を設定していません。

2011年開示で説明しているとおり、アストラゼネカが関係する申し立ての大部分では、手続きの最終的解決によって生じる財務的影響を妥当に見積もることはできません。これらの訴訟では、アストラゼネカは、訴訟の性質と事実に関する情報のみを開示し、引当金は設定しません。

訴訟が解決または裁定されるか、定量化できる罰金や処罰が決定されて上訴が行われないか、予想される損害を妥当に見積もることができる場合は、損失を記録するか、引当金を設定して予想される損害をできる限り見積もります。

状況に応じて立場が変わるため、これらの引当金を計算する際に使用した見積りは本質的に不正確です。したがって、法的手続きの結果によって生じる損害が計上された引当金を超えないという保証はありません。このような不確実性の原因となる主要な要素については、2011年開示および本書で詳細に説明しています。

アストラゼネカは、知的財産権を全面的に信頼し、積極的に防衛および強化しています。

2012年第1四半期および2012年4月に関して開示された項目

特許/薬事訴訟

アリミデックス（アナストロゾール）

米国外での特許訴訟

2012年3月、カナダ連邦控訴裁判所は、保健大臣による販売承認の発行を差し止める決定を求める Mylan Pharmaceuticals ULCの申告を棄却しました。

Atacand Plus（カンデサルタンシレキセチル/ヒドロクロロチアジド）

米国外での特許訴訟

2012年2月、カナダにおいて、アストラゼネカは Cobalt Pharmaceuticals Inc.との製造承認訴訟において和解しました。これにより、Cobalt Pharmaceuticals Inc.は、一定の条件下で2012年9月23日までにカナダ市場に参入することができます。

クレストール（ロスバスタチンカルシウム）

米国内での特許訴訟

2012年2月、連邦巡回控訴裁判所は、地方裁判所による訴答手続きと成熟性に基づく、クレストールの2件の用法特許に関するアストラゼネカの特許侵害訴訟の棄却を確認しました。アストラゼネカは、後日申告する権利を有していません。

米国外での特許訴訟

2012年2月、カナダにおいて、アストラゼネカは Pharmascience Inc.（PMS社）と和解に達し、アストラゼネカのクレストールの物質特許に関する訴訟を解決しました。合意の一環として、PMS社は一定の条件下で2012年4月2日までにカナダ市場に参入することができます。

2012年2月、オーストラリア連邦裁判所は、オーストラリアでのロスバスタチンの発売を阻止する仮差し止めを無効にするという Apotex Pty Ltd's（Apotex社）の申し立てを却下しました。その後、2012年3月にも Apotex社からの無効申し立てが審理され、却下されました。2012年3月23日、仮差し止めを支持するアストラゼネカに有利な決定が認められました。2012年3月、アストラゼネカが Watson Pharma Pty Ltd および Ascent Pharma Pty Ltd に対して申し立てていた仮差し止めが認められました。

Entocort EC（ブデソニド）

米国内での特許訴訟

2012年4月、連邦巡回控訴裁判所は、Mylan Pharmaceuticals Incの後発品であるブデソニド製品がアストラゼネカの Entocort EC特許を侵害していないという連邦地方裁判所の決定を確認しました。

2012年2月、アストラゼネカは、Santarus, Inc.（Santarus社）より、§505(b)(2)に基づきブデソニド製品を販売するFDAの承認を受けるために新薬申請を行ったという通知を受け取りました。Santarus社は、Entocort ECに関して、オレンジブックに記載された特許を侵害していないと主張しています。アストラゼネカは Santarus社の通知を検討しています。

ネキシウム（エソメプラゾールマグネシウム）

米国内での特許訴訟

2012年4月、アストラゼネカは、Hetero Drugs Ltd, Unit III および Hetero USA Inc. (Hetero社と総称)との契約を締結し、これらの企業に対するアストラゼネカの特許侵害訴訟が和解しました。和解の一環として、Hetero社は、一定の条件下で薬事承認に従い、2014年5月27日までにエソメプラゾールマグネシウムの後発品によって米国市場に参入する許可を取得しました。

2012年1月、アストラゼネカは、Mylan Laboratories Ltd. (Mylan社)からパラグラフIV通知を受け取りました。2012年3月、アストラゼネカは、ニュージャージー連邦地方裁判所にMylan社に対する特許侵害訴訟を提起しました。

米国外での特許訴訟

2012年3月、アストラゼネカは、Mylan Pharmaceuticals ULC (Mylan社)が陳述書を撤回した後、カナダでのネキシウム物質特許番号2.290.963に関して、Mylan社と係争中であった開示済みの製造承認訴訟手続きを中止しました。

セロクエル(クエチアピソマル酸塩)およびセロクエルXR(クエチアピソマル酸塩)

米国内での薬事訴訟

2012年3月12日、アストラゼネカは、2012年3月7日のFDAによる市民請願の却下を覆すため、コロンビア特別区連邦地方裁判所にFDAに対する訴訟を提起しました。この市民請願では、FDAがアストラゼネカにセロクエルおよびセロクエルXRの添付文書に含めることを義務づけていた血糖過多と自殺傾向の警告文をクエチアピソ後発品の添付文書から削除することに関する最終承認を差し控えるよう要請していました。この訴訟で、アストラゼネカは、FDAが血糖過多の警告文に関連する特定の臨床試験データの承認制度による独占権が失効する2012年12月まで、または少なくとも連邦裁判所がクエチアピソ後発品を最終承認するFDAの決定を審査するまで、クエチアピソ後発品の最終承認を差し控えるよう求めています。2012年3月23日、地方裁判所は、仮差し止めを却下し、FDAの最終承認前に訴訟を提起することは時期尚早であるとして、本案について決定に達せずに既得権を損うことなく訴訟を棄却しました。2012年3月28日、クエチアピソ後発品を最終承認したというFDAの通知を受けて、アストラゼネカは、コロンビア特別区連邦地方裁判所に、これらの承認を無効にし、クエチアピソ後発品の追加承認を差し止める一時的差止命令(TRO)を求める新たな訴訟を提起しました。裁判所は、TROの請求を却下し、本案についての状況説明を進めるよう命じました。

セロクエルXR(クエチアピソマル酸塩)

米国内での特許訴訟

2012年2月、ニュージャージー連邦地方裁判所は、対人管轄権欠如を根拠にIntellipharmaceutics Corp.およびIntellipharmaceutics International Inc. (Intellipharmaceutics社と総称)に対する特許侵害訴訟を棄却しました。Intellipharmaceutics社に対する特許侵害訴訟は、ニューヨーク南部連邦地方裁判所で係争中です。

以前に報告したとおり、2011年10月、ニュージャージー連邦地方裁判所は、特定の後発品メーカーに対するセロクエルXR製剤特許に関して、セロクエルXR特許侵害訴訟の審理を行いました。2012年3月、裁判所は、セロクエルXRの製剤特許が有効と判断しました。裁判所は、Anchen Pharmaceuticals, Inc.、Osmotica Pharmaceutical Corporation、Torrent Pharmaceuticals Limited、Torrent Pharma Inc.、Mylan Pharmaceuticals Inc.、Mylan Inc.がセロクエルXRの製剤特許を侵害したという判断も下しました。この決定に対し上訴が行われています。

米国外での特許訴訟

2012年3月、オランダでは、ハーグ地方裁判所がセロクエルXRの製剤特許の有効性を支持しました。

2012年3月、英国では、高等法院がセロクエルXRの製剤特許を無効と判断しました。

スペインでは、セロクエルXRの製剤特許の有効性に関する審理が行われ、結果を待っているところです。

セロクエルXRの後発品は、ドイツ、オーストリア、デンマークで発売されています。アストラゼネカは、セロクエルXRの特許を確信しており、今後も適切な法的措置を講じる予定です。アストラゼネカは今後もセロクエルXRの知的財産権を確信していますが、さらに後発品が発売され、裁判所による当社に不利な決定が下される可能性もあります。

製造物責任訴訟

クレストール(ロスバスタチンカルシウム)

アストラゼネカは、クレストールを用いた治療による障害を訴える合計115人の原告が関係する5件の訴訟を争っています。この訴訟は、2012年3月にカリフォルニア州裁判所に提起されました。訴訟では、複数の型の真性糖尿病、さまざまな心外傷、横紋筋融解、さまざまな肝臓および腎臓損傷が申し立てられています。アストラゼネカは、申し立てに積極的に抗弁する予定です。6人の原告がクレストールによって生じたと主張する同様の障害について2011年にサンフランシスコ郡で訴訟を提起しましたが、これらの訴訟は延期または棄却されています。

商事訴訟

Synagis(パリビズマブ)

2011年9月、アストラゼネカのバイオ医薬品部門であるメディミュン社は、メリーランド州モンゴメリー郡巡回裁判所に契約軽装における確認を求めるAbbott International, LLC (Abbott社)に対する訴訟を提起しました。Abbott社の棄却申し立てが認められました。2011年9月、Abbott社は、イリノイ州裁判所にメディミュン社に対する並行訴訟を提起しました。係争中の資金をエスクロウ(第三者預託)として預託するというAbbott社の申し立ては却下され

ました。2012年2月、裁判所は、メディミュン社の棄却申し立てを却下しました。公判期日は2013年に設定される見通しです。

自己負担補助金訴訟

2012年3月、New England Carpenters Health and Welfare Fundは、アストラゼネカが消費者の自己負担義務に補助金を提供するネキシウムおよびグレストールの処方に関して消費者に償還を行う保険支払者に代わって、ペンシルベニア東部連邦地方裁判所にアストラゼネカに対する訴訟を提起しました。この告訴は、未確定の3倍損害賠償および費用（弁護士費用を含む）に加え、アストラゼネカによる自己負担補助金プログラムの提供差し止めを求めています。他の連邦裁判所でも、7社のメーカーを相手取った同様の申し立てが各々の自己負担補助金プログラムに関して提起されています。

政府調査/訴訟

ネキシウム（エソメプラゾールマグネシウム）

欧州委員会は、ネキシウムに関する疑わしい行為および申し立てられたEU競争法違反の調査を終了しました。

セロクエル（クエチアピソフマル酸塩）

2012年3月、アストラゼネカは、アストラゼネカがセロクエルのマーケティングおよびプロモーションの際に用いた不正および/または誤解を生じるようなステートメントについて、モンタナ州検事総長の申し立てを解決する原則的な合意に達し、措置が講じられました。

インド中央捜査局

2012年2月、インドにおいて、インド中央捜査局がアストラゼネカとデリー保健局（DHS）の中央調達課の職員に対して刑事上の第一次情報請求（FIR）を提起しました。FIRでは、DHSのメロペネム入札に関連して、アストラゼネカが虚偽の供述書を提出したと申し立てています。FIRの申し立ての内容は、アストラゼネカは供述書ではDHSへの見積もり金額が他の政府、準政府、自治区、公立の病院、機関、組織に対して見積もった料金を超えないと説明したにもかかわらず、他の病院には同じ医薬品を安く販売し、結果的にDHSに損害を与えたというものです。FIRでは、DHSの未特定の職員とアストラゼネカが共謀して、「理由開示通知」の発行を通じて過払いを回収しようとするDHSの回収手続きを妨げようとしたと主張しています。アストラゼネカは現在、申し立てを検討しています。

2012年第2四半期および2012年7月に関して開示された項目

特許/薬事訴訟

Atacand Plus（カンデサルタンシレキセチル/ヒドロクロロチアジド）

米国外での特許訴訟

2012年5月、カナダにおいて、アストラゼネカはApotex Inc.との製造承認訴訟において和解しました。これにより、Apotex Inc.は、一定の条件下で2012年9月23日までにカナダ市場に参入することができます。

Losec（オメプラール）

米国外での特許訴訟

2012年5月、アストラゼネカは、カナダの連邦裁判所から、2003年12月に最終的に却下された承認手続きによって生じたセクション8損害についてApotex社に対して責任を負うという判決が下されました。実際の損害額は、裁判所の仲裁手続きによって将来の期日に決定されます。

ネキシウム（エソメプラゾールマグネシウム）

米国内での特許訴訟

2012年5月、アストラゼネカは、Torrent Pharmaceuticals Ltd.（Torrent社）との契約を締結し、Torrent社に対するアストラゼネカの特許侵害訴訟が和解しました。和解の一環として、Torrent社は、一定の条件下で薬事承認に従い、2014年5月27日までにエソメプラゾールマグネシウムの後発品によって米国市場に参入する許可を取得しました。

2011年に開示したとおり、アストラゼネカは、Hanmi USA Inc.ほか（以下「Hanmi社」と称する）がエソメプラゾールストロンチウム20mgおよび40mgのFDA販売承認を取得するため、セクション505(b)(2)に基づいてNDAを申請したというHanmi社のパラグラフIV通知書に対応して、米国ニュージャージー州地方裁判所でHanmi社を相手取って特許訴訟を開始しました。2011年、Hanmi社は、5件の略式判決請求を提出しました。2012年6月、裁判所は、5件の請求のうち2件を却下しました。裁判所は、残り3件の請求について決定を下していません。裁判所は、2013年4月に裁判が行われることを指示しました。

セロクエル（クエチアピソフマル酸塩）およびセロクエルXR（クエチアピソフマル酸塩）

米国内での薬事訴訟

2012年6月28日、コロンビア特別区地方裁判所は、セロクエルIRの独占権の発行に関するアストラゼネカの略式判決交差申立を却下し、FDAの略式判決交差申立を認めました。アストラゼネカは現在、対応を検討しています。

米国内での特許訴訟

2012年7月、アストラゼネカは、Amneal Pharmaceuticals, LLCからパラグラフIV通知書を受け取りました。アストラゼネカは現在、申し立てを検討しています。

米国外での特許訴訟

アストラゼネカは、セロクエルXRに関連する特許および/またはセロクエルXRの規制上の独占権に関して、世界中で多くの訴訟手続きに関与しています。

2012年7月、バルセロナ地方裁判所は、セロクエルXRの製剤特許が有効であると判断しました。

セロクエルXRの後発品は、いくつかの国で発売されています。アストラゼネカは、セロクエルXRの特許を確信しており、今後も適切な法的措置を講じる予定です。アストラゼネカは今後もセロクエルXRの知的財産権を確信していますが、さらに後発品が発売され、裁判所による当社に不利な決定が下される可能性もあります。

製造物責任訴訟

ネキシウム（エソメプラゾールマグネシウム）

以前に開示したとおり、アストラゼネカは、米国でNexiumおよび/またはPrilosec（オメプラール）による、骨の老化、骨密度低下、および/または骨折を申し立てる原告によって製造物責任訴訟の被告に指名されました。現在、約1,400人の原告が参加する19件の裁判が進行中ですが、その大部分は2012年度第2四半期に提出されたものです。

セロクエル（クエチアピソマル酸塩）

2006年、アストラゼネカがセロクエルに関連する健康リスクを認識していたが、それらのリスクを患者に十分に警告していなかったことを特に申し立てる請求の原因がオンタリオ州裁判所に提出されました。集団訴訟として請求を認定することを求める動議について、2011年11月に聴取が行われました。2012年5月、オンタリオ州上級司法裁判所は認定の動議を却下しました。原告は上訴しています。

イレッサ（ゲフィチニブ）

アストラゼネカと日本の厚生労働省（MHLW）は、アストラゼネカに約67万ドルに利息を加えた金額の支払いを命じた大阪地方裁判所の2011年判決を上訴していました。2012年5月25日、大阪高等裁判所は、大阪地方裁判所の判決を逆転させ、アストラゼネカも厚生労働省も申し立ての責任を負わないという判決を下しました。2012年6月5日、原告は、最高裁判所に大阪地方裁判所の判決を上訴しました。

商事訴訟

製造業者平均仕切り価格に関する代理訴訟（Streck）

2012年7月3日、フィラデルフィア連邦裁判所は、被告の動議を一部認め、一部却下する判決を下しました。アストラゼネカに関して、州裁判所および連邦裁判所は、2007年1月1日までのすべての製造業者平均仕切り価格の提出に関する原告の請求を棄却しましたが、2007年1月1日以降の提出に関するすべての請求を棄却する動議を却下しました。

平均卸売価格に関する訴訟

2012年4月、アストラゼネカとアストラゼネカの生物学的製剤部門であるメディミューン社は、ルイジアナ州司法長官との間で、州が提起した平均卸売価格に関する訴訟の申し立てを解決するための和解に達しました。対策が講じられました。2012年6月29日、ルイジアナ州裁判所は、訴訟を取り下げました。

塩野義との仲裁—クレストールのライセンス料計算

2012年7月20日、塩野義製薬株式会社は、クレストールの売上に対するライセンス料の計算に含まれる特定の消費税およびその他の特定項目の処理に関する問題を解決するため、仲裁手続きに入りました。

Toprol-XL（メトプロロール酒石酸塩）

以前に開示したとおり、アストラゼネカは、Toprol-XLを保護する特許の取得と執行に関して、米国で反トラストの申し立てに対して防衛しています。アストラゼネカは、最終支払者の残りの申し立てを解決する合意を大筋で締結しました。対策が講じられました。

政府調査/訴訟

ネキシウム（エソメプラゾールマグネシウム）

オランダ競争庁（NMa）による支配的地位の濫用の申し立ての調査において、調査団は、エソメプラゾール以外の特定のプロトンポンプ阻害剤の後発品の差し押さえを主張する報告書を発行しました。この書類は、NMaの法務部に渡されました。アストラゼネカは、2012年4月に抗弁を行い、2012年中のNMa委員会による決定を待っています。

セロクエル（クエチアピソマル酸塩）

2012年7月、アストラゼネカは、セロクエルの営業・販売業務を巡る調査に関連して、テキサス州司法長官室から民事調査要求を受けました。

2012年6月、アストラゼネカは、セロクエルの営業・販売に関するアストラゼネカの誤った説明および/または誤解を招く説明を巡ってニューメキシコ州司法長官から提起された申し立てを解決して取り下げる合意を遂行し、ユタ州司法

長官から提起された同様の申し立てを解決して取り下げる合意（文書化中）に大筋で達しました。第2四半期に対策が講じられました。2012年7月、アストラゼネカは、サウスカロライナ州司法長官から提起された同様の申し立てを解決して取り下げる合意（文書化中）にも大筋で達しました。7月に対策が講じられる予定です。

Synagis（パリビズマブ）

以前に開示したとおり、2011年6月30日、アストラゼネカの生物学的製剤部門であるメディミュン社は、ニューヨーク州南部地区連邦地検から、Synagisの営業・販売業務に関する特定の書類の要求を受けました。2011年7月1日、メディミュン社は、政府弁護士が通知した共同調査に従い、ニューヨーク州司法長官室のメディケイド不正管理部門から、書類を作成する同様の裁判所命令を受けました。メディミュン社は、これらの要求を受領し、政府当局と連携して適切に対応し、関連する調査に協力しています。これらの調査の正確な範囲は明らかにされておらず、アストラゼネカは現時点で、アストラゼネカの責任につながるかどうかも含め、これらの案件の範囲、期間、または結果を予測できる立場にありません。

2012年5月10日、アストラゼネカの生物学的製剤部門であるメディミュン社は、フロリダ州司法長官室のメディケイド不正管理部門から、Synagisの営業・販売業務に関連する特定の書類を請求する文書提出令状を受け取りました。メディミュン社は、この要求を受領し、フロリダ州当局と連携して適切に対応し、関連する調査に協力しています。アストラゼネカは、調査の性質や対象を把握していませんが、要求の性質は（上述の）ニューヨーク州と法務省の調査に似ているものと思われます。

セルビア

以前に開示したとおり、セルビア裁判所が被告の現地従業員が医師に不適切な支払いを行ったとするアストラゼネカおよびその他の製薬企業に対する起訴を取り下げた後、セルビアの検察官は起訴状を修正し、再度送達しました。2011年12月、アストラゼネカは、セルビア裁判所に取り下げを再度要請しました。2012年5月、裁判所は、修正された起訴状を取り下げるアストラゼネカの要請を却下し、アストラゼネカおよびその他の製薬企業に対する訴訟手続きを個々の被告に係争中の訴訟手続きと結合しました。アストラゼネカは、セルビア憲法裁判所に上訴しました。

7 上半期の製品売上に関する分析

	全世界			米国			西ヨーロッパ			ROWの既成市場			ROWの新興市場		
	2012年 上半期 100万 ドル	前年 同期比 (%)	恒常為替 (%)	2012年 上半期 100万 ドル	前年 同期比 (%)	2012年 上半期 100万 ドル	前年 同期比 (%)	恒常為替 (%)	2012年 上半期 100万 ドル	前年 同期比 (%)	恒常為替 (%)	2012年 上半期 100万 ドル	前年 同期比 (%)	恒常為替 (%)	
消化器															
ネキシウム	1,902	(16)	(15)	1,089	(10)	233	(49)	(46)	219	(8)	(8)	361	(2)	3	
Losec/Prilosec (オメプラール)	365	(23)	(22)	17	(19)	104	(18)	(13)	159	(25)	(27)	85	(25)	(26)	
その他	94	25	27	68	45	18	(18)	(14)	4	-	-	4	100	100	
消化器合計	2,361	(16)	(15)	1,174	(8)	355	(41)	(38)	382	(16)	(17)	450	(7)	(4)	
循環器															
クレストール	3,087	(3)	(2)	1,469	(1)	592	(3)	2	694	(9)	(10)	332	(1)	3	
Atacand	586	(21)	(18)	76	(20)	289	(20)	(16)	76	(38)	(37)	145	(11)	(6)	
セロケン/Toprol-XL	432	(9)	(7)	145	(24)	34	(17)	(12)	16	(16)	(16)	237	5	9	
Tenormin	117	(13)	(11)	6	-	26	(13)	(7)	53	(12)	(13)	32	(16)	(13)	
Plendil	133	2	-	3	(25)	10	(17)	(17)	7	17	17	113	5	2	
ONGLYZA™	151	86	86	112	90	22	47	47	6	200	200	11	120	120	
Brilinta/Brilique	27	有意差なし	有意差なし	3	有意差なし	18	有意差なし	有意差なし	-	-	-	6	有意差なし	有意差なし	
その他	167	(17)	(13)	4	(20)	81	(18)	(13)	17	(19)	(19)	65	(14)	(12)	
循環器合計	4,700	(5)	(3)	1,818	(1)	1,072	(9)	(4)	869	(13)	(13)	941	(1)	2	
呼吸器															
シムビコート	1,518	(2)	1	466	16	660	(9)	(5)	180	(9)	(9)	212	(7)	(2)	
パルミコート	433	(11)	(9)	116	(30)	84	(18)	(15)	60	2	-	173	11	13	
Rhinocort	87	(21)	(19)	31	(28)	16	(24)	(19)	6	(33)	(33)	34	(8)	(5)	
その他	91	(17)	(15)	5	25	48	(14)	(11)	12	-	-	26	(32)	(29)	
呼吸器合計	2,129	(6)	(3)	618	-	808	(11)	(6)	258	(7)	(8)	445	(3)	1	
オンコロジー															
ゾラデックス	548	(5)	(3)	12	(45)	115	(13)	(10)	218	(7)	(8)	203	7	12	
アリミデックス	291	(30)	(29)	13	(55)	73	(55)	(52)	141	(4)	(5)	64	(17)	(14)	
イレッサ	297	14	15	-	(100)	70	19	25	102	9	6	125	18	17	
カンデックス	231	(15)	(15)	(2)	有意差なし	28	(38)	(33)	151	(12)	(15)	54	(2)	-	
フェソロデックス	312	21	24	147	16	92	1	7	25	有意差なし	有意差なし	48	23	33	
その他	64	14	14	12	140	7	-	-	29	(3)	(7)	16	14	21	
オンコロジー合計	1,743	(5)	(4)	182	(1)	385	(22)	(18)	666	(2)	(4)	510	6	10	
ニューロサイエンス															
セロクエル IR	1,031	(52)	(52)	668	(59)	165	(41)	(39)	110	1	(2)	88	(29)	(26)	
セロクエル XR	754	4	6	396	4	236	(1)	4	46	7	9	76	21	29	
局所麻酔	272	(11)	(8)	-	(100)	108	(14)	(10)	99	3	2	65	(12)	(8)	
ゾーミッド	102	(50)	(49)	7	(91)	63	(26)	(22)	26	(26)	(26)	6	(14)	(14)	
Diprivan	145	(7)	(6)	-	(100)	18	(22)	(17)	39	(7)	(10)	88	11	14	
Vimovo	33	230	240	15	88	9	有意差なし	有意差なし	6	有意差なし	有意差なし	3	有意差なし	有意差なし	
その他	18	(5)	-	5	400	6	(40)	(40)	1	(50)	(50)	6	-	17	
ニューロサイエンス合計	2,355	(34)	(33)	1,091	(49)	605	(21)	(17)	327	(1)	(2)	332	(6)	(1)	
感染症・その他															
Synagis	439	(4)	(4)	303	1	136	(12)	(12)	-	-	-	-	-	-	

<i>Merrem</i>	200	(39)	(37)	10	(64)	37	(67)	(65)	14	(58)	(58)	139	(11)	(7)
<i>FluMist</i>	4	33	33	4	100	-	-	-	-	-	-	-	(100)	(100)
その他	35	(51)	(51)	16	(64)	3	(40)	(40)	6	(14)	(14)	10	(38)	(38)
感染症・その他合計	678	(21)	(20)	333	(11)	176	(35)	(35)	20	(50)	(50)	149	(14)	(10)
Aptium Oncology	43	(62)	(62)	43	(62)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アストラテック	-	(100)	(100)	-	(100)	-	(100)	(100)	-	(100)	(100)	-	(100)	(100)
合計	14,009	(16)	(15)	5,259	(20)	3,401	(23)	(20)	2,522	(10)	(11)	2,827	(3)	1

8 第2四半期の製品売上に関する分析

	全世界			米国			西ヨーロッパ			ROWの既成市場			ROWの新興市場		
	2012年 第2四 半期 100万 ドル	前年 同期比 (%)	恒常為替 (%)	2012年 第2四 半期 100万 ドル	前年 同期比 (%)	恒常為替 (%)	2012年 第2四 半期 100万 ドル	前年 同期比 (%)	恒常為替 (%)	2012年 第2四 半期 100万 ドル	前年 同期比 (%)	恒常為替 (%)	2012年 第2四 半期 100万 ドル	前年 同期比 (%)	恒常為替 (%)
消化器															
ネキシウム	949	(15)	(13)	554	(10)		112	(41)	(37)	98	(16)	(15)	185	(3)	3
Losec/Prilosec (オメプラール)	195	(18)	(16)	9	13		60	(6)	3	87	(26)	(26)	39	(22)	(22)
その他	42	17	19	30	36		8	(27)	(18)	3	-	-	1	-	-
消化器合計	1,186	(14)	(12)	593	(8)		180	(32)	(26)	188	(21)	(20)	225	(7)	(2)
循環器															
クレストール	1,587	(7)	(5)	787	(1)		295	(9)	(1)	331	(21)	(20)	174	-	6
Atacand	269	(30)	(25)	36	(27)		120	(36)	(30)	37	(39)	(36)	76	(13)	(7)
セロケン/Toprol-XL	208	(10)	(7)	72	(21)		18	(14)	(5)	8	(20)	(20)	110	-	5
Tenormin	60	(15)	(13)	3	-		13	(13)	-	28	(7)	(7)	16	(30)	(30)
Plendil	60	(3)	(5)	2	(33)		5	(17)	(17)	4	33	33	49	(2)	(4)
ONGLYZA™	79	72	72	58	76		11	22	22	4	300	300	6	100	100
Brilinta/Brilique	18	有意差なし	有意差なし	3	有意差なし		12	有意差なし	有意差なし	-	-	-	3	有意差なし	有意差なし
その他	83	(22)	(17)	2	-		40	(25)	(15)	9	(18)	(18)	32	(22)	(20)
循環器合計	2,364	(10)	(7)	963	(1)		514	(17)	(9)	421	(21)	(20)	466	(5)	-
呼吸器															
シムビコート	795	(1)	3	249	21		334	(12)	(5)	108	5	6	104	(10)	(3)
パルミコート	206	(13)	(10)	60	(32)		39	(20)	(14)	31	3	3	76	10	14
Rhinocort	43	(22)	(18)	15	(21)		8	(33)	(25)	3	(40)	(40)	17	(11)	(5)
その他	43	(22)	(18)	2	-		24	(20)	(13)	8	33	33	9	(47)	(47)
呼吸器合計	1,087	(5)	(1)	326	3		405	(14)	(7)	150	4	5	206	(6)	(1)
オンコロジー															
ゾラデックス	275	(9)	(6)	6	(40)		57	(17)	(13)	113	(8)	(7)	99	(1)	4
アリミデックス	147	(19)	(16)	6	(40)		36	(35)	(29)	73	(4)	(4)	32	(20)	(15)
イレッサ	154	11	13	-	-		34	3	12	56	10	10	64	16	16
カンデックス	118	(14)	(13)	(2)	有意差なし		14	(36)	(27)	78	(14)	(15)	28	-	4
フェソロデックス	161	19	24	75	15		47	(4)	4	15	有意差なし	有意差なし	24	20	35
その他	35	21	21	6	100		4	(20)	(20)	16	-	-	9	80	80
オンコロジー合計	890	(4)	(1)	91	7		192	(18)	(11)	351	(2)	(2)	256	3	8
ニューロサイエンス															
セロクエル IR	277	(76)	(75)	126	(86)		52	(64)	(61)	54	(2)	(2)	45	(27)	(23)
セロクエル XR	370	(4)	(1)	197	(4)		112	(13)	(6)	23	-	4	38	27	40
局所麻酔	140	(10)	(5)	-	(100)		53	(16)	(8)	52	2	4	35	(8)	(3)
ゾーミグ	48	(53)	(50)	2	(95)		29	(34)	(30)	13	(28)	(28)	4	33	67
Diprivan	79	(8)	(6)	-	(100)		8	(27)	(18)	21	-	-	50	4	6
Vimovo	17	183	200	6	20		5	有意差なし	有意差なし	3	有意差なし	有意差なし	3	有意差なし	有意差なし
その他	12	33	44	5	400		3	(25)	(25)	1	-	-	3	-	33
ニューロサイエンス合	943	(50)	(48)	336	(71)		262	(34)	(29)	167	(2)	(1)	178	(2)	5

計														
感染症・その他														
Synagis	55	15	15	1	(100)	54	26	26	-	-	-	-	-	-
Merrem	100	(37)	(33)	1	(92)	18	(65)	(62)	6	(68)	(68)	75	-	5
FluMist	2	有意差なし	有意差なし	2	有意差なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	19	(41)	(41)	12	(19)	1	(50)	(150)	1	-	100	5	(69)	(62)
感染症・その他合計	176	(26)	(24)	16	(53)	73	(25)	(25)	7	(65)	(60)	80	(8)	(2)
Aptium Oncology	14	(77)	(77)	14	(77)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アストラテック	-	(100)	(100)	-	(100)	-	(100)	(100)	-	(100)	(100)	-	(100)	(100)
合計	6,660	(21)	(18)	2,339	(29)	1,626	(26)	(20)	1,284	(13)	(12)	1,411	(4)	1

株主情報

発表および総会

2012年 第3四半期・9カ月累計業績発表

2012年 10月25日

2012年 第4四半期・通年業績発表

2013年 1月31日

配当金

2012年9月10日に支払われる第1回期中配当の基準日は2012年8月10日です。株式は、2012年8月8日から配当落ちとして取引されます。

今後の配当金は、通常、以下の予定により支払われます。

第1回期中配当

7月に発表、9月に支払を実施。

第2回期中配当

1月に発表、3月に支払を実施。

商標

アストラゼネカグループの商標は本文書中、斜体で表示しています。AstraZeneca のロゴ、シンボルはすべて、アストラゼネカグループの商標です。アストラゼネカ以外の他社の商標には、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社の商標である ONGLYZA™ や KOMBIGLYZE XR™、Amylin Pharmaceuticals, Inc. の商標である BYETTA®、BYDUREON®、SYMLIN®、Forest Laboratories, Inc. の商標である TEFLARO® など® または™ の表示を付記しております。

連絡先

株式登録および名義書換事務

Equiniti Limited
Aspect House
Spencer Road
Lancing
West Sussex
BN99 6DA
UK

預託銀行

JP Morgan Chase & Co
PO Box 64504
St Paul
MN 55164-0504
US

届出事務所

2 Kingdom Street
London
W2 6BD
UK

スウェーデン証券集中保管機関

Euroclear Sweden AB
PO Box 191
SE-101 23 Stockholm
Sweden

電話（英国内通話料無料）：

0800 389 1580

電話（英国以外）：

+44 (0)121 415 7033

電話（米国内通話料無料）：

888 697 8018

電話（米国以外）：

+1 (651) 453 2128

電話：+44 (0)20 7604 8000

電話：+46 (0)8 402 9000

お問い合わせ先

報道機関お問い合わせ先：

Esra Erkal-Paler（ロンドン）

+44 20 7604 8030

Sarah Lindgreen（ロンドン）

+44 20 7604 8033

Tony Jewell（ウィルミントン）

+1 302 885 4594

Ann-Leena Mikiver（セーデルテリエ）

+46 8 553 260 20/+46 707 428836

アナリスト / 投資家向け情報：

James Ward-Lilley（ロンドン）

+44 20 7604 8122

Karl Hård（ロンドン）

+44 20 7604 8123

Nicklas Westerholm（ロンドン）

+44 20 7604 8124

Ed Seage/Jörgen Winroth（米国）

+1 302 886 4065/+1 212 579 0506

将来予想に関する記述についての警告文

特に米国民証券訴訟改革法（Private Securities Litigation Reform Act 1995）の「セーフハーバー」規定の適用を受けるため、当社は以下の警告文を発します：本期中財務報告書には、グループの事業運営、業績および財政状態にかかわる将来予想に関する記述が一部記載されています。当社では予想は合理的な仮定に基づいていると考えていますが、将来予想に関する記述は、その性質上リスクや不確定要素を伴い、様々な要因の影響を受ける可能性があり、かかる要因によって実際の成果や結果は、予測と大幅に異なったものになる可能性があります。将来予想に関する記述は、期中財務諸表の作成日現在入手可能なデータや情報を反映しており、アストラゼネカがこうした将来予想に関する記述を更新する義務を負うものではありません。将来予想に関する記述の中で当社が使用している言葉として、「期待」「考え」「予想」「意図」などが挙げられますが、それと類似した表現も使用しています。実際の結果が将来予想に関する記述と大幅に異なったものになる重要な要因には、当社にとって不可抗力のものが含まれます。かかる要因として、特に次のことが挙げられます：特許権や独占販売権または商標の喪失ないし満了、特許保護の取得が失敗するリスク、実質的な悪影響を及ぼす訴訟／政府の調査要求および不十分な保険の補償範囲に関するリスク、為替相場の変動、研究開発の結果商業的成功につながる新製品が開発されないリスク、戦略的提携が不成功に終わるリスク、競争・価格統制・価格下落による影響、課税のリスク、多額の製造物責任請求、サードパーティが材料やサービスを供給できない場合の影響、不適切な危機管理に伴うリスク、新製品の上市が遅れるリスク、製品に対する規制当局の承認を獲得し維持することが困難な状況、規制当局の取り締まりに従わないことのリスク、新製品が期待通りに機能しないリスク、環境に関する法的責任を被ることのリスク、新興市場での事業活動に伴うリスク、評判にダメージを受けるリスク、製品が偽造されるリスク、生産性イニシアチブと事業再構築プログラムを通じて計画したコスト削減措置を順調に実施できないリスク、規制当局によるバイオシミラーの承認プロセスが将来的な商業見通しに悪影響を及ぼすリスク、より厳格な賄賂禁止法および腐敗防止法の実施と執行の増加。